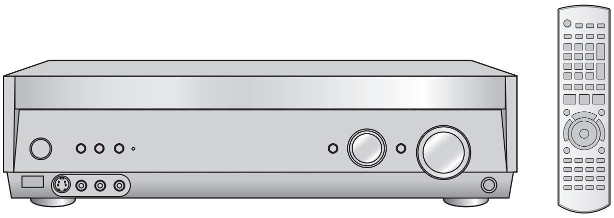
Panasonic®



取扱説明書

AV コントロールアンプ

品番 SU-XR57



このたびは AV コントロールアンプをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

保証書別添付

- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
  特に「安全上のご注意」（→ 36、37）はご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。
  お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

HDMI™ HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

上手に使って上手に節電

RQT8554-MS

ホームシアターが簡単に楽しめる！

接続

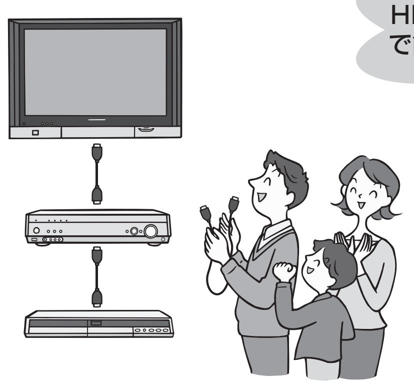
今までは…

何本もの
ケーブルが必要



SU−XR57では！！

HDMIケーブル1本
で簡単！(➔5)

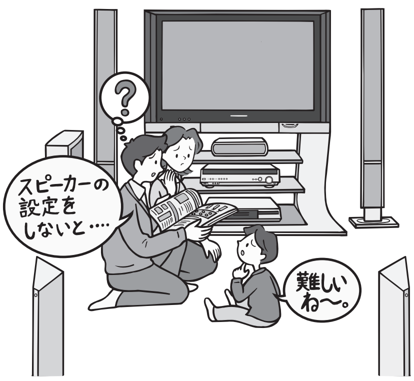


※他の接続も
できます

設定

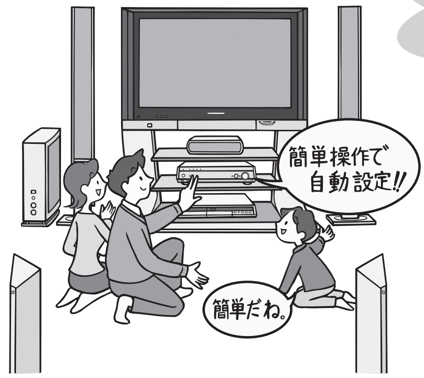
今までは…

スピーカーごとに
手動で設定



SU−XR57では！！

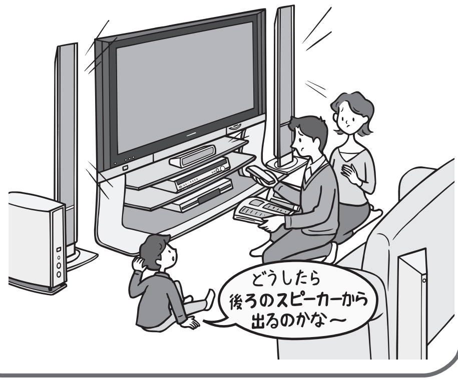
ボタンを押すだけで、
スピーカーの有無が
設定できる！（➔14）



再生

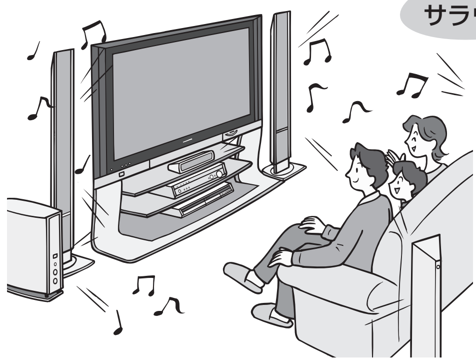
今までは…

リモコン操作で
サラウンド再生



SU−XR57では！！

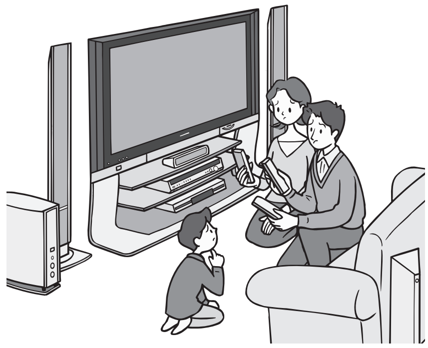
DVDもテレビも
再生するだけで、
サラウンドに！(➔16)



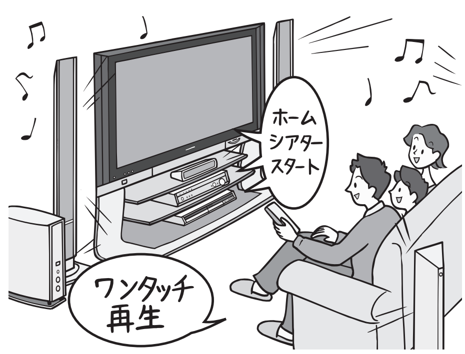
HDMI接続で

ビエラ　リンク　コントロール　ビエラ　ディーガ
「VIERA Link（HDAVI Control）」対応のテレビ（VIERA）とDVDレコーダー（DIGA）を接続すると…

複数の操作が必要だったホームシアター



ワンタッチ操作でホームシアターが楽しめる！（➔19）



もくじ

お知らせ

本書では、参照していただくページを（→ 3）のように示しています。

各部のはたらき

リモコン

入力ソースの電源を「入/切」する/
ソース切り換え/
リモコンの操作モードを
切り換える(➔ 20 〜 23)

アンプ電源ボタン

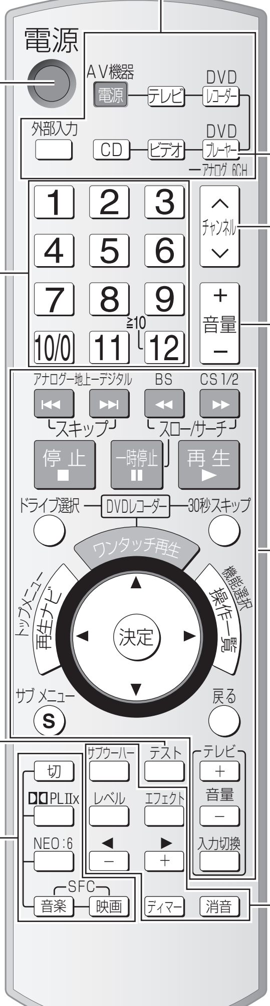
DVD オーディオを 6 チャンネル
再生する (➔ 18)

チャンネル入力
テレビ(➔ 20)
DVD レコーダー(➔ 21)
ビデオ(➔ 23)
トラックやチャプターを選ぶ
DVD レコーダー(➔ 21)
DVD プレーヤー(➔ 22)
トラックを選ぶ
CD プレーヤー(➔ 23)

チャンネル選択　テレビ(➔ 20)
DVD レコーダー(➔ 21)
ビデオ(➔ 23)

音量を調整(➔ 15)

他の機器の操作(➔ 19 〜 23)



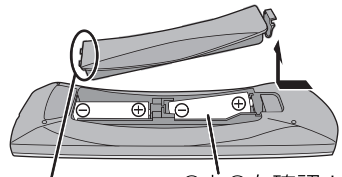
スピーカーの音声出力を確認
する(➔ 15)

サラウンド音声で聞く
(➔ 24、25)

スピーカーの音量調整をする
(➔ 15)
SFC のモードを選ぶ(➔ 25)
音質・音場効果/便利な機能
(➔ 26、27)

リモコンに乾電池を入れる

ふたのふちを押しながら開ける

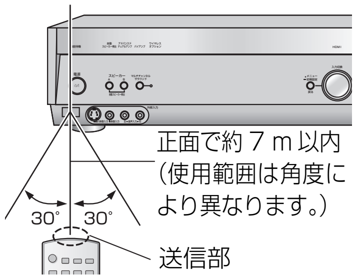


⊕と⊖を確認！
(単 3 形)

ふたを閉めるときは、こちら側
から先に入れる

リモコンの使いかた

リモコン受光部



正面で約 7 m 以内
(使用範囲は角度に
より異なります。)

送信部

使用上のお願い

- 受光部とリモコンの間に障害物を置かない。
- 受光部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。
- 受光部と送信部のほこりに注意。

☞ **本体をラックに入れて使用する場合**

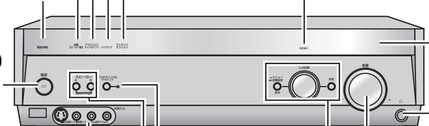
ラックのガラス扉の厚さや色などによって、リモコンの動作範囲が短くなることがあります。

本体と本体表示部

自動スピーカー検出機能を働かせたとき点滅(➔ 14)
アドバンスドデュアルアンプが働いているとき点灯 (➔ 18)
バイアンプが働いているとき点灯(➔ 18)
デジタルトランシーバーが挿入されているとき点灯(➔ 12)
HDMI 接続の通信が確立したとき点灯(➔ 5)

電源コードを
接続すると
ランプが点灯

電源の
入/切



ヘッドホンを接続 (➔ 27)

ビデオカメラ
などを接続
(➔ 13)

マルチチャンネル
サラウンドの入/切
(マルチチャンネル
サラウンドが入のとき、
ランプが点灯します。)
(➔ 16)

音量を調整 (➔ 16、27)

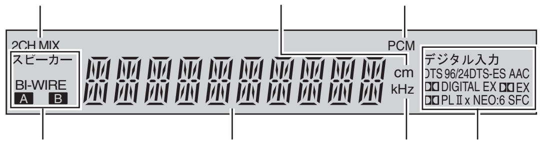
入力ソースの切り換え (➔ 16)
「メニュー」の操作 (➔ 28、29)
「初期設定」の操作 (➔ 30 〜 33)

フロントスピーカーの選択(➔ 14 〜 16、18、27)

2 チャンネルミックス
が働いているときに
点灯

単位表示

PCM FIX を
選択している
ときに点灯



使用する
フロント
スピーカーを
表示

情報表示

周波数単位

デジタル
音声の
入力信号
(➔ 17)

ホームシアターの準備

- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 接続する各機器の説明書もご覧ください。
- 本機の上には物を載せないでください。

テレビ、DVD レコーダー、DVD プレーヤーと接続する

HDMI 接続で、高画質と高音質を手軽に楽しむ

HDMI は High-Definition Multimedia Interface の略です。

- 1本のケーブルで映像と音声のデジタル信号が伝送できます。
また、コントロール信号も伝送できます。(→ 19)
- 本機はCPPM※に対応していますので、DVDオーディオのマルチチャンネル音声がデジタル伝送できます。
- HDMI 接続で映像や音声を楽しんでいるときは、HDMI ランプが光ります。



※(Content Protection for Prerecorded Media)
DVD オーディオのファイルコピーを防止する著作権保護技術です。

使用するケーブル

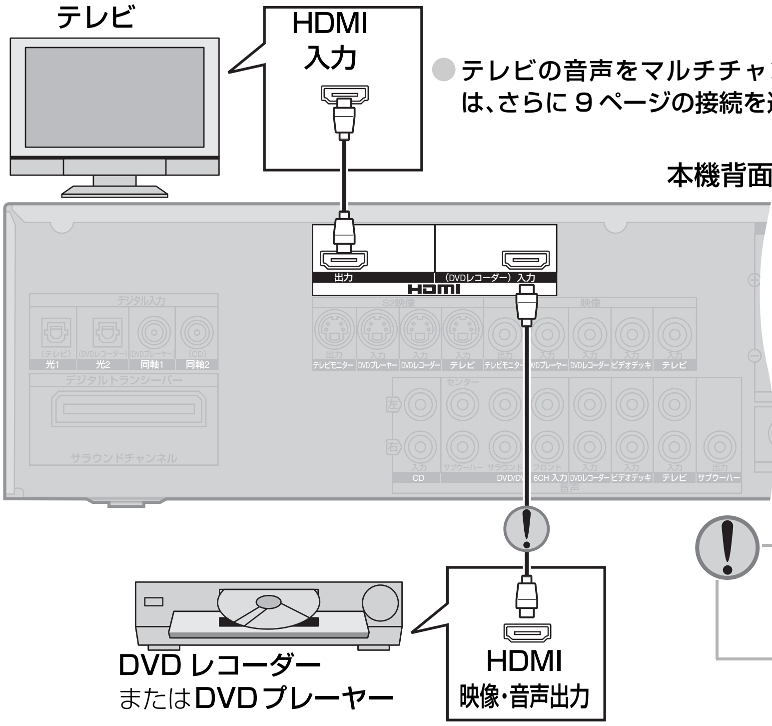
映像と音声	**HDMI ケーブル**(別売) [品番:RP-CDHG10(1.0 m)、RP-CDHG15(1.5 m)、RP-CDHG20(2.0 m)、RP-CDHG30(3.0 m)など]  HDMI ケーブルは、表紙に記載しているロゴのあるものをお買い求めください。

別売品の品番は、2005 年 12 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

別売品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックグループのショッピングサイト
「パナセンス」でもお買い求めいただけます。

Pana Sense

http://www.sense.panasonic.co.jp/



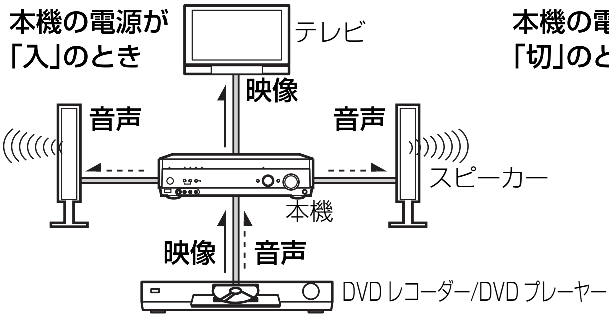
- **テレビの音声をマルチチャンネルで楽しむには、さらに 9 ページの接続を追加してください。**

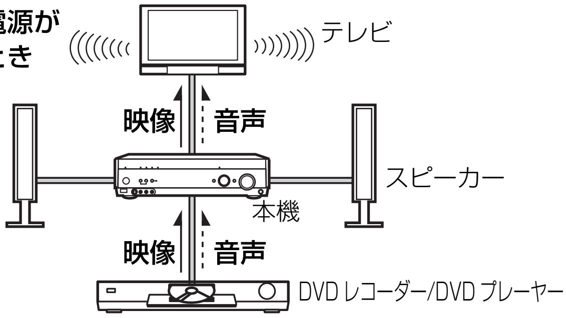


DVDプレーヤーと接続する場合は、**「HDMI入力端子に接続した機器を選択する」**で“***DVD***”に変更してください。(→ 33)

HDMI 接続時の映像信号と音声信号の流れ

本機の電源が「切」の場合でも、DVD レコーダー／ DVD プレーヤーからの映像信号と音声信号は、本機を通過してテレビへ伝送されます。(**スタンバイスルー**)





お知らせ

- 接続した DVD レコーダーや DVD プレーヤーが DVD オーディオのマルチチャンネル音声をデジタル出力できない場合(HDMI Ver.1.0の機器など)は、**「DVDオーディオの高音質なアナログ音声を楽しむ(DVDアナログ6CH接続)」(→ 8)**の接続をして、DVD アナログ 6CH 再生をしてください。**(→ 18)**
- 本機とVIERA Link (HDAVI Control) 機能対応のテレビ(VIERA)、DVDレコーダー(DIGA)をHDMI接続すると、本機のリモコンの[ワンタッチ再生] ボタンで簡単にホームシアターが楽しめます。**(→ 19)**
- HDMI 端子とデジタル端子**(→ 6、7)**の両方を接続している場合、HDMI の音声信号が優先されます。

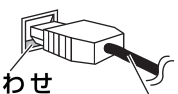
ホームシアターの準備（つづき）

テレビ、DVD レコーダー、DVD プレーヤーと接続する（つづき）

高画質で楽しむ

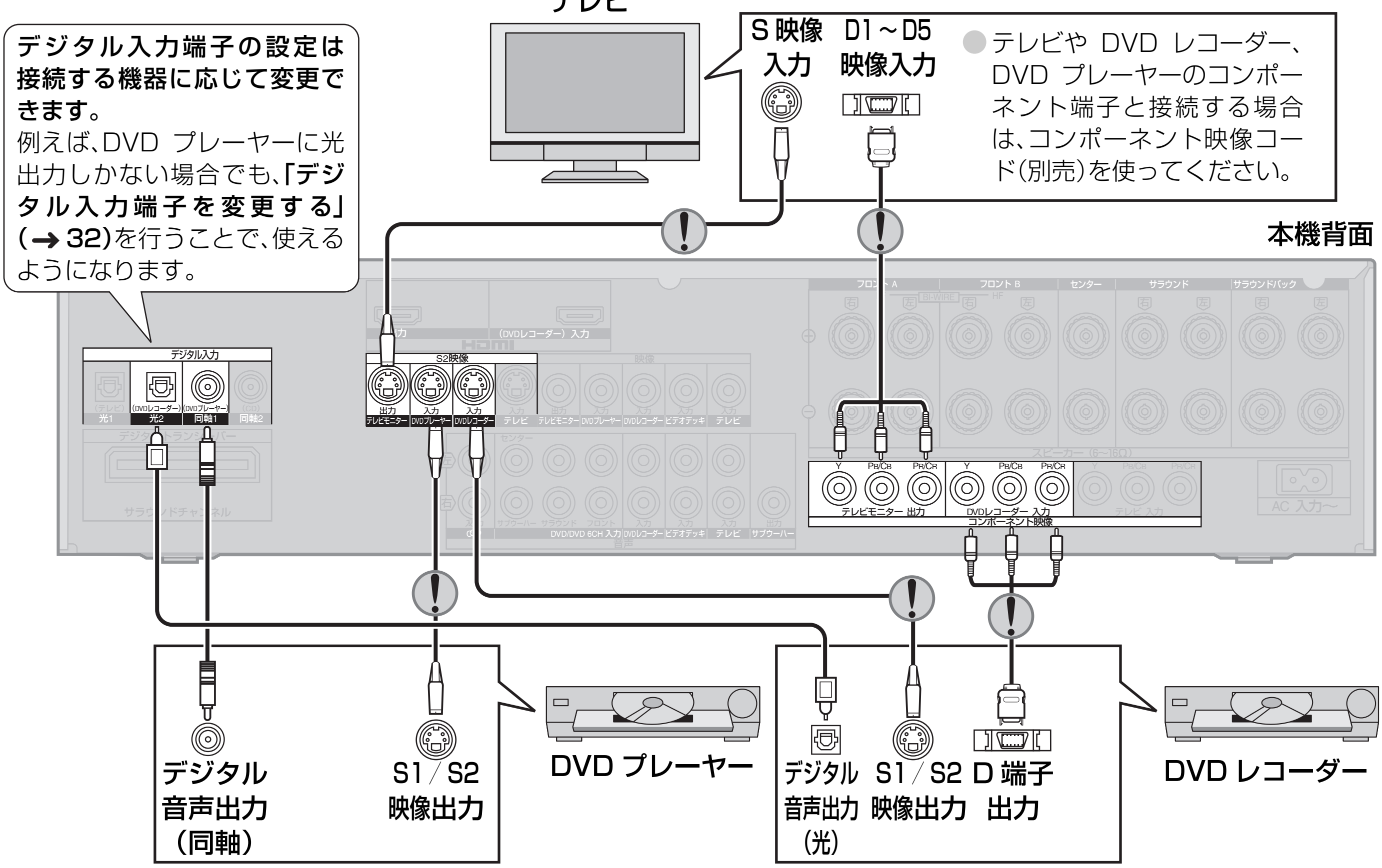
使用するケーブル

● テレビや DVD レコーダー、DVD プレーヤーにどのような端子がついているかを確認し、接続ケーブルをご用意ください。
● テレビやDVDレコーダーに映像端子が何種類かある場合は、一つ選んで接続してください。D端子（コンポーネント映像端子）はS2映像端子よりも忠実に色を再現できます。

映像	**S 映像コード**（別売） ［品番：RP-CVS0G10（1.0 m）など］ 	**D 端子ピンケーブル**（別売） ［品番：RP-CVCDG15（1.5 m）など］ 	**コンポーネント映像コード**（別売） ［品番：RP-CVPCG10（1.0 m）など］ 
音声	**光デジタルケーブル**（別売） ［品番：RP-CA2010A（1.0 m）など］  角形	**光デジタルケーブルの接続方法**  **形状を合わせて差し込む** ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。	**同軸デジタルケーブル**（市販） 

別売品の品番は、2005 年 12 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

● **テレビの音声をマルチチャンネルで楽しむには、さらに 9 ページの接続を追加してください。**



映像端子について

• 入力された映像信号は同じタイプの出力端子からしか出力されません。
• コンポーネント映像端子（色差映像端子）は、赤（PR／CR）、青（PB／CB）、輝度（Y）信号がそれぞれ独立して出力されるため、色をより忠実に再現します。本機のコンポーネント映像端子は Y、PB、PR または Y、CB、CR のコンポーネント映像に対応しています。

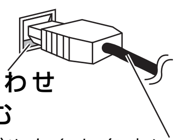
お知らせ

BS デジタルチューナーや CS チューナーなどを接続する場合は、13 ページをご覧ください。

- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 接続する各機器の説明書もご覧ください。
- 本機の上には物を載せないでください。

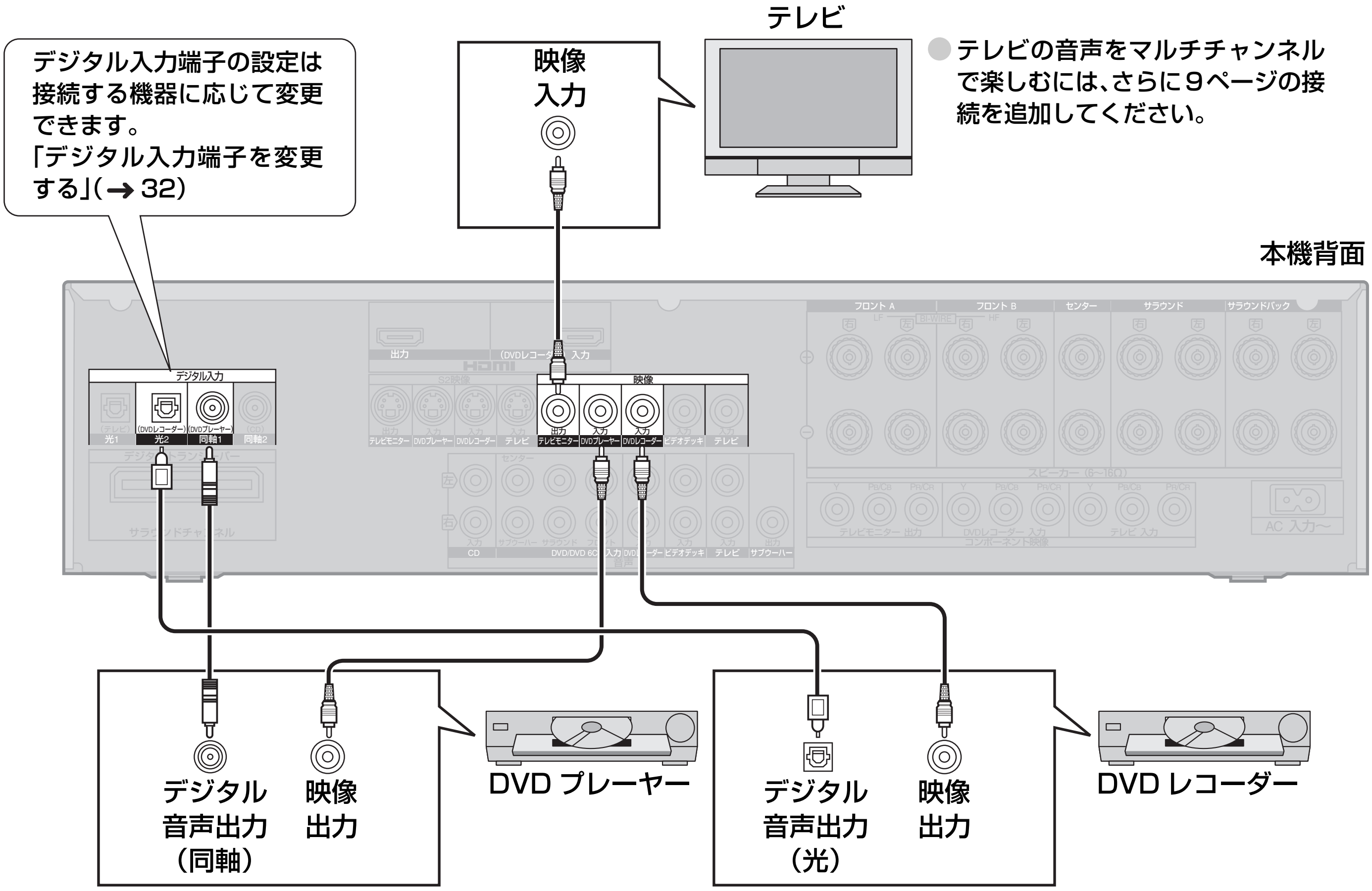
標準的な画質で楽しむ

使用するケーブル

映像	**ビデオコード**(別売) [品番:RP-CVP0G10(1.0 m)など] 	
音声	**光デジタルケーブル**(別売) [品番:RP-CA2010A(1.0 m)など]  角形 **光デジタルケーブルの接続方法**  **形状を合わせて差し込む** ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。	**同軸デジタルケーブル**(市販) 

別売品の品番は、2005 年 12 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

- **テレビの音声をマルチチャンネルで楽しむには、さらに9ページの接続を追加してください。**



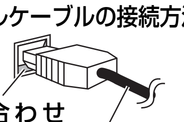
○○(お知らせ)○○
BS デジタルチューナーや CS チューナーなどを接続する場合は、13 ページをご覧ください。

ホームシアターの準備（つづき）

テレビ、DVD レコーダー、DVD プレーヤーと接続する（つづき）

使用するケーブル

映像	ビデオコード（別売） [品番：RP-CVP0G10（1.0 m など）]	S 映像コード（別売） [品番：RP-CVS0G10（1.0 m）など]	D 端子ピンケーブル（別売） [品番：RP-CVCDG15（1.5 m）など]	コンポーネント映像コード（別売） [品番：RP-CVPCG10（1.0 m）など]
音声	ステレオピンコード（別売） [品番：RP-CAP3G10（1.0 m）など] （左）白 （右）赤		光デジタルケーブル（別売） [品番：RP-CA2010A（1.0 m）など] 角形	**光デジタルケーブルの接続方法** **形状を合わせて差し込む** ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

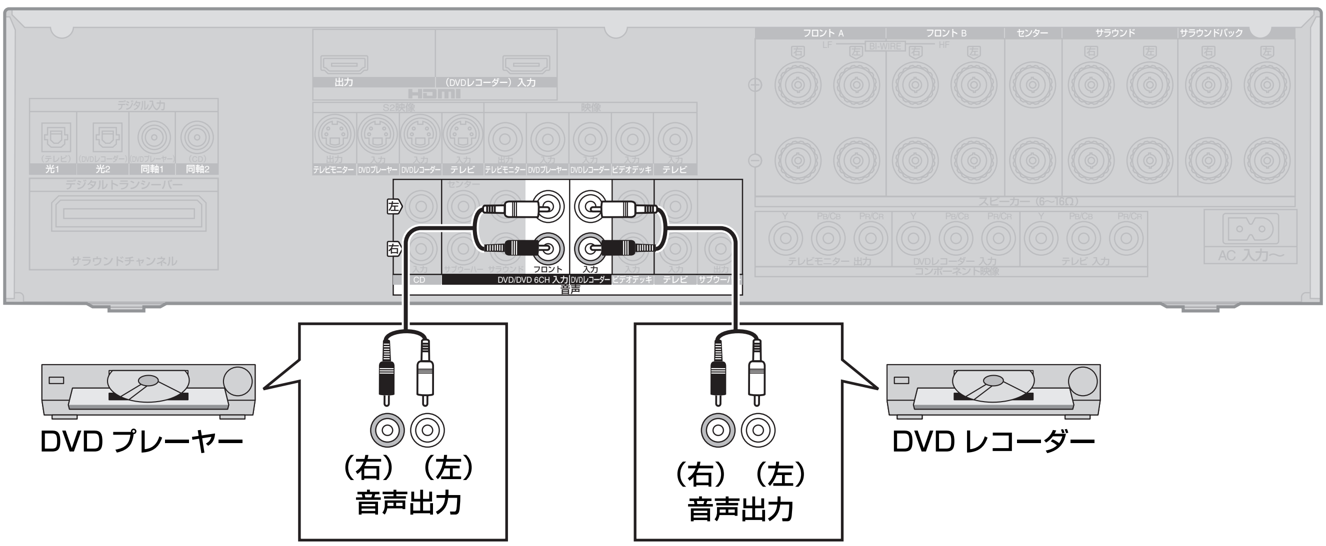


別売品の品番は、2005 年 12 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

アナログ音声を楽しむ

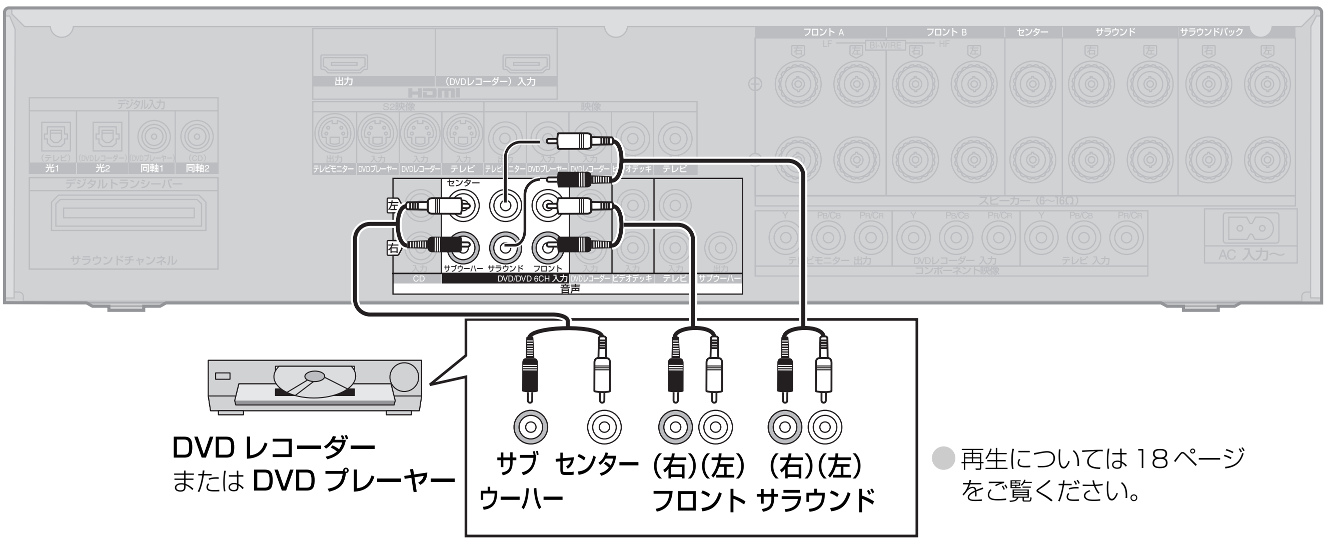
お持ちの機器やお好みに合わせて、アナログ接続をしてください。映像の接続については 6、7 ページをご覧ください。

本機背面



DVD オーディオの高音質なアナログ音声を楽しむ（DVD アナログ 6CH 接続）

本機背面



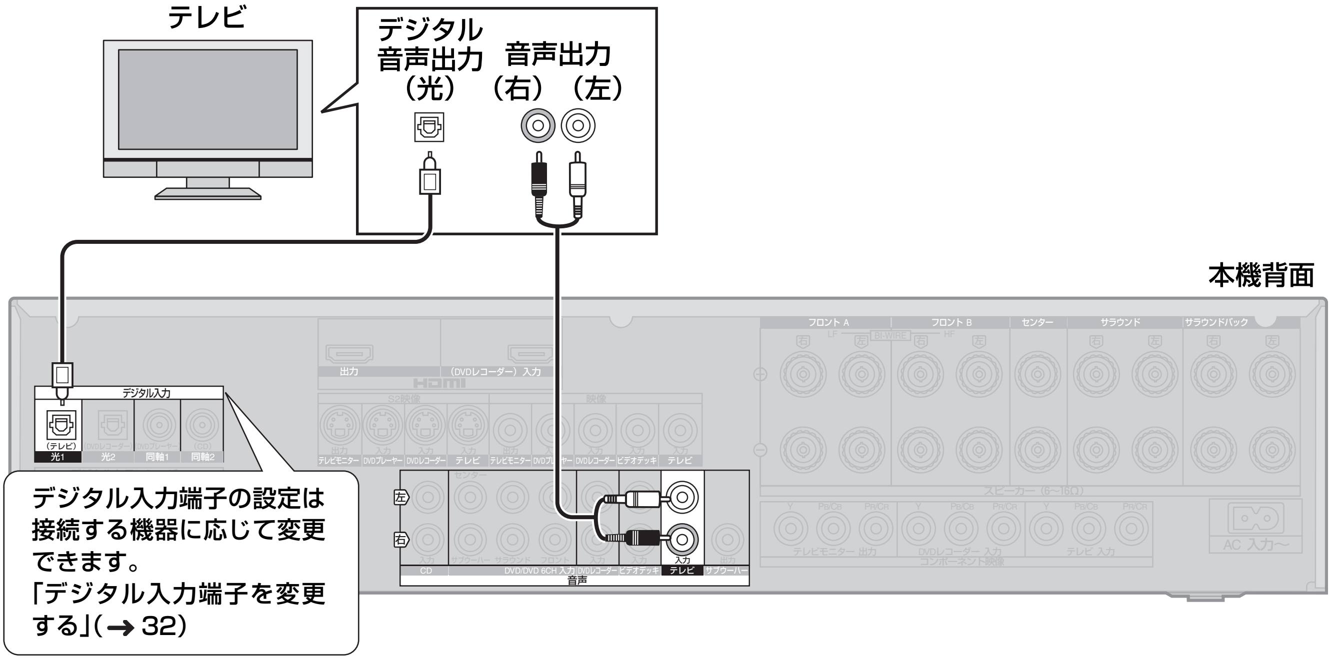
● 再生については 18 ページをご覧ください。

● 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
● 接続する各機器の説明書もご覧ください。
● 本機の上には物を載せないでください。

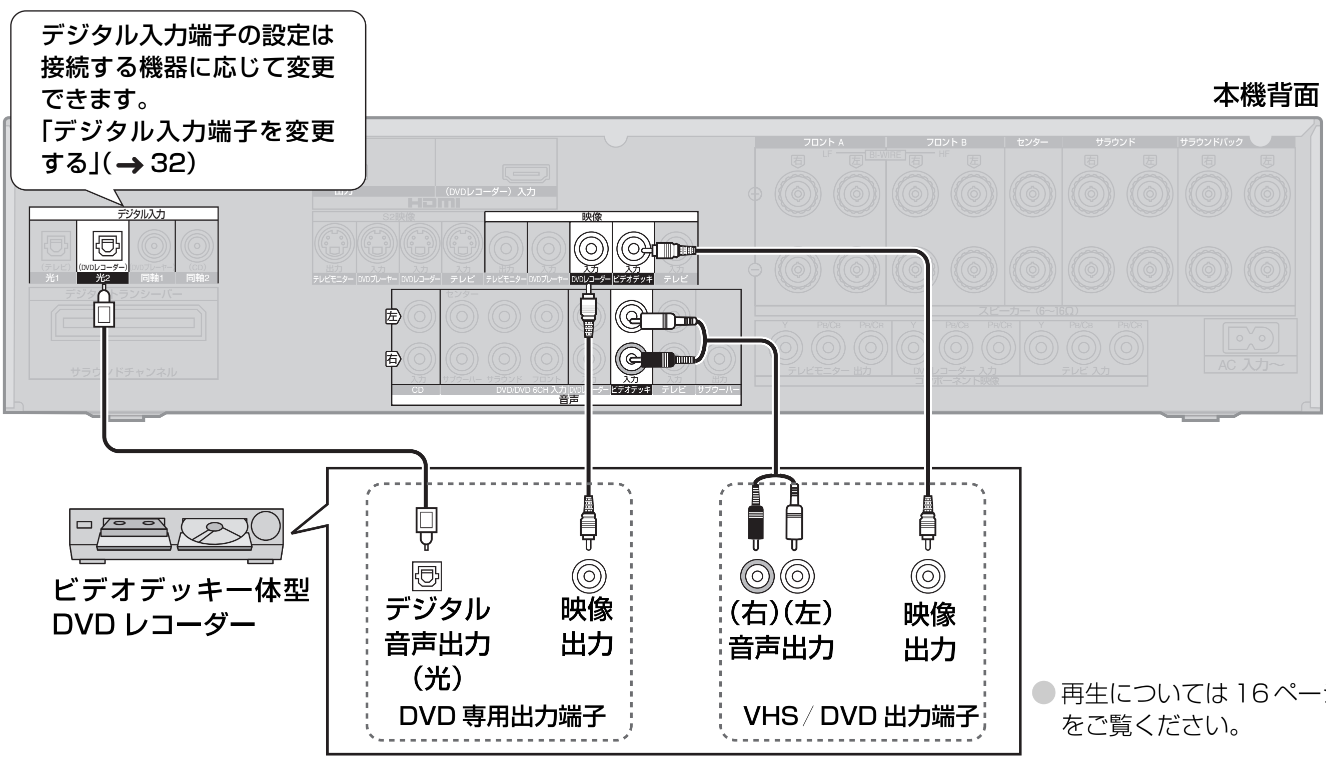
テレビの音声をマルチチャンネルで楽しむ

5～7ページの接続に、さらに追加して接続します。

• デジタル音声出力(光)とアナログ音声出力のいずれかを接続するだけで、音声は出力されます。お持ちの機器やお好みに合わせて接続してください。
• 光デジタルケーブルは、テレビにデジタル出力端子のある場合に接続してください。BSデジタルチューナーなどを内蔵している場合、本機でAAC(➔ 17)の音声を楽しめます。



ビデオデッキ一体型 DVD レコーダーと接続する



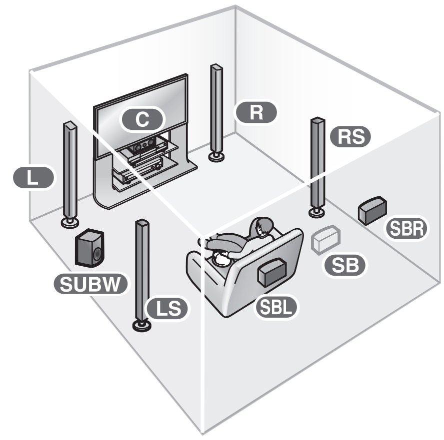
● 再生については16ページをご覧ください。

ホームシアターの準備（つづき）

スピーカーと接続する

スピーカーの数に合わせて設置・接続する

視聴位置から各スピーカー（サブウーハーを除く）を同じ距離に設置するのが理想です。
同じ距離に設置できない場合は各スピーカーと視聴位置との距離を測り、**「距離の設定をする」**（→ 31）を行ってください。



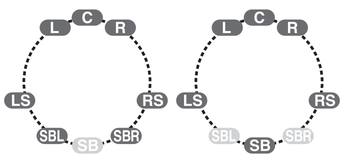
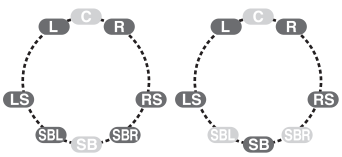
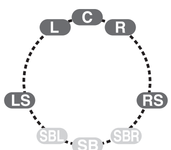
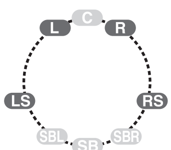
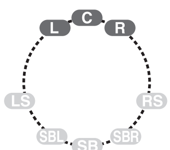
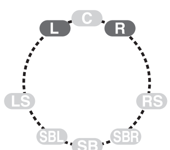
フロントスピーカー（左 L 、右 R ）
テレビの左右に置き、視聴位置で（実際に椅子に座るなどして）映像と音声の動きが合うように、位置や角度を調整してください。

センタースピーカー（ C ）
テレビの真上か真下に置き、視聴位置での耳の高さへまっすぐに向けてください。

サラウンドスピーカー（左 LS 、右 RS ）
視聴位置の左右（横またはやや後ろ）に、耳の位置より 1 m ほど高く設置してください。

サラウンドバックスピーカー（左 SBL 、右 SBR / 1 本接続時 SB ）
視聴位置の後ろに、耳の位置より 1 m ほど高く設置してください。

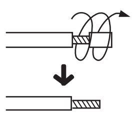
サブウーハー（ SUBW ）
テレビから大きく離れない程度の適当な位置に置いてください。

スピーカーの数	配置例	
7 本または 6 本 （センターあり）		• 6.1 チャンネルソース（DTS-ES、ドルビーデジタル サラウンド EX）を再生するのに良い配置です。 • 2 チャンネルや 5.1 チャンネルソースでは、ドルビープロロジック Ⅱx、NEO:6、SFC を使って、7.1 / 6.1 チャンネル再生を楽しめます。
6 本または 5 本 （センターなし）		• センタースピーカーを設置せずに 6.1 / 5.1 チャンネルを再生できます。 • センターの音声は左右フロントスピーカーに分配されて出力されます。
5 本 （センターあり）		• 5.1 チャンネルソース（ドルビーデジタル、DTS、AAC）を再生するのに良い配置です。 • 2チャンネルソースは、ドルビープロロジック Ⅱx、NEO:6、SFCを使って、5.1 チャンネル再生を楽しめます。
4本 （センターなし）		• 5.1 チャンネル以上のソース、および、2 チャンネルソースにドルビープロロジック Ⅱx、NEO:6、SFC を使用した場合には、センターの音声は左右フロントスピーカーに分配されて出力されます。サラウンドバックの音声は、左右サラウンドスピーカーに分配されて出力されます。
3 本 （センターあり）		• 4.1 チャンネル以上のソース、および、2 チャンネルソースにドルビープロロジック Ⅱx、NEO:6、SFC を使用した場合には、サラウンド、サラウンドバックの音声は左右フロントスピーカーに分配されて出力されます。
2 本 （センターなし）		• 2 チャンネルソースを再生するのに、良い配置です。 • マルチチャンネルソースの左右フロント以外の音声は、左右フロントスピーカーから集約して出力されます。

- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 接続する各機器の説明書もご覧ください。
- 本機の上には物を載せないでください。

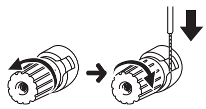
スピーカーコードの接続方法

1



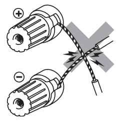
スピーカーコードの先端のビニール部分は、ねじりながら抜き取ります。

2 スピーカー端子



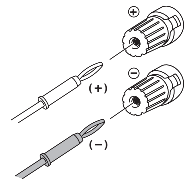
●●お願い●●

- 左、右と⊕、⊖をご確認の上、正しく接続してください。誤った接続をすると故障の原因になります。
- スピーカーコードをショートさせないでください。回路が破損する恐れがあります。



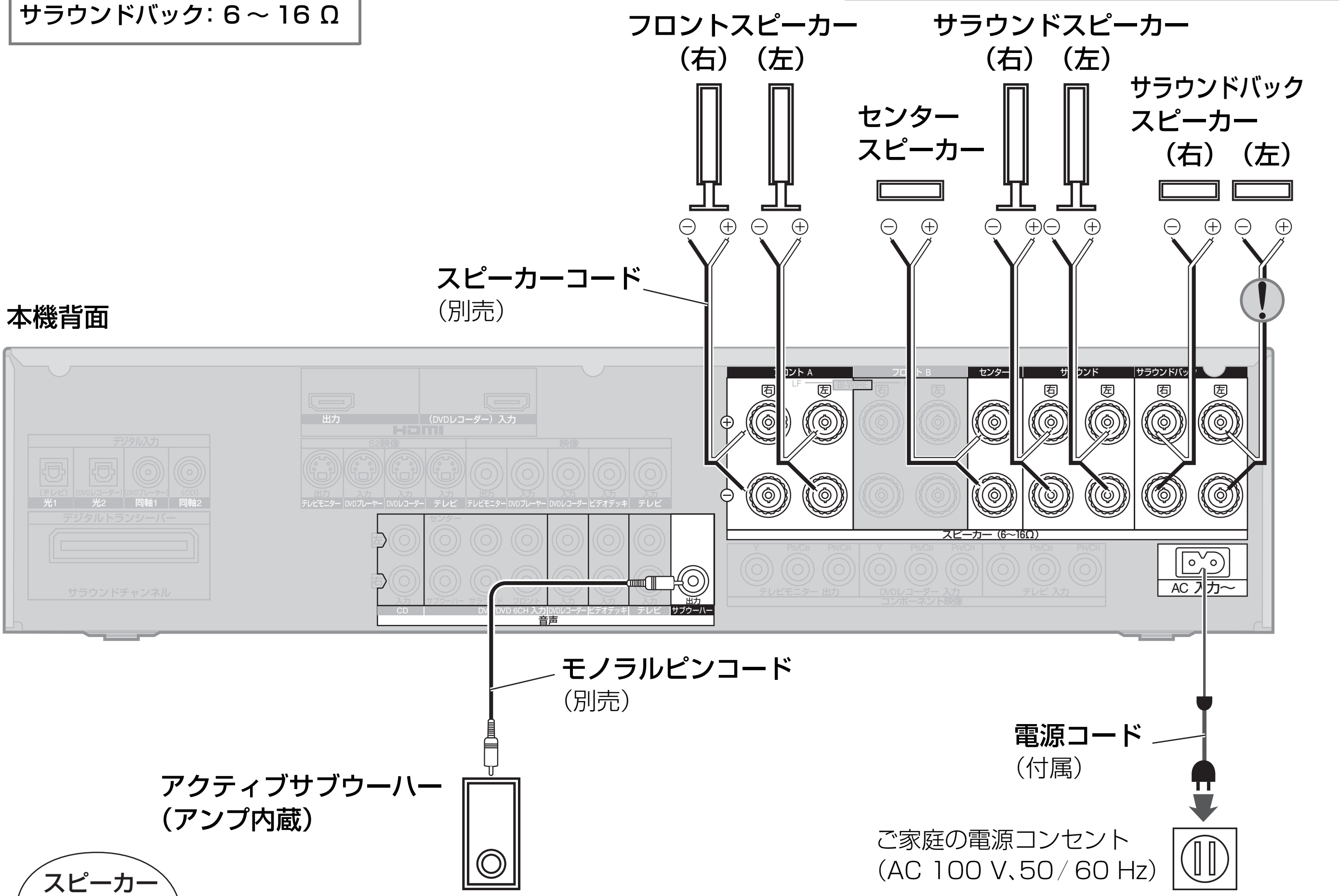
バナナプラグ(市販)**の接続**

スピーカー端子を右に回してしっかり締めつけ、端子の穴にプラグを挿入してください。



スピーカーインピーダンス	
フロントA:	6～16 Ω
センター:	6～16 Ω
サラウンド:	6～16 Ω
サラウンドバック:	6～16 Ω

サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続するときは、(左)に接続してください。





電源コードは、他の接続がすべて終わってから、最後にコンセントへ接続してください。

- 電源プラグをコンセントに接続した状態で約0.7 Wの電力を消費しています。長期間使用しないときは抜いておいてください。
- 電源プラグを抜いた状態で約2週間そのままにしておくと、本機の各種設定は購入時の状態に戻ります。そのときは、再度設定を行ってください。

○○お知らせ○○

スピーカーを新しく接続し直したときなどには、必ず「**スピーカーの有無を自動で検出する**」(➔ 14)を実行してください。

ホームシアターの準備（つづき）

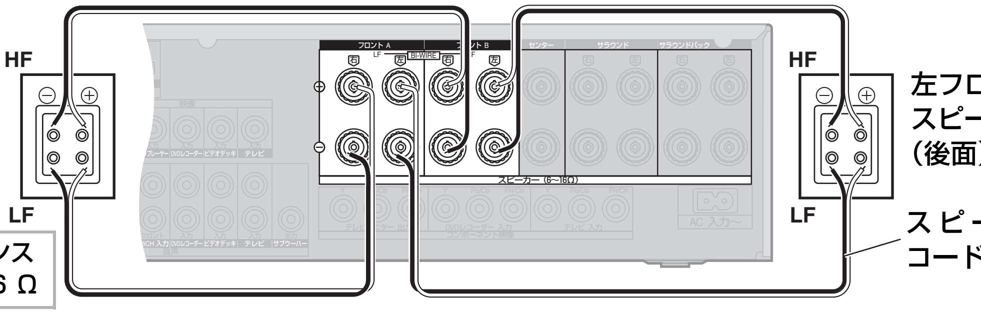
- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 接続する各機器の説明書もご覧ください。
- 本機の上には物を載せないでください。

スピーカーと接続する（つづき）

バイワイヤー対応のスピーカーと接続する

バイワイヤー対応のスピーカーとは、高周波域と低周波域で独立した接続端子があるスピーカーのことです。

- バイワイヤー接続すると、高周波域と低周波域で相互干渉がなくなり、高音質な再生が楽しめます。
- アナログ音声や2チャンネルのPCM信号を再生させると、高周波域と低周波域で別々のアンプを使う、より明瞭で高音質なバイアンプステレオサウンドを楽しむことができます。（➔ 18）
- HF は高周波域、LF は低周波域のことです。



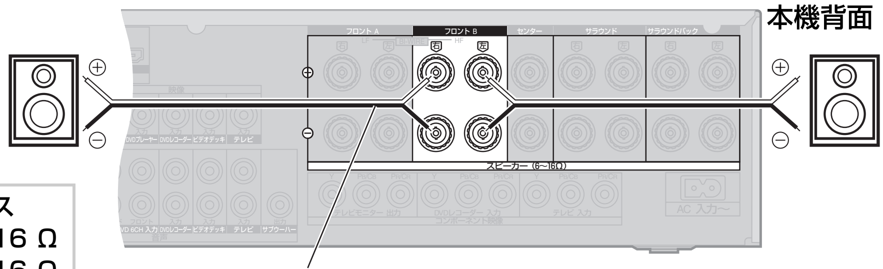
スピーカーインピーダンス
BI-WIRE:　6 ～ 16 Ω

お知らせ

- 必ず HF を B 端子側、LF を A 端子側に接続してください。逆に接続した場合、「**HF と LF のずれを補正する**」（➔ 32）ができません。
- 接続した後は、「**バイワイヤー接続の設定をする**」（➔ 31）で“***YES***”を必ず選択してください。この設定をしないと、適切に音声が出力されません。

2 組目のフロントスピーカーと接続する

他の部屋に 2 組目のスピーカーを設置して、音楽を楽しみたいときなどに使用します。



スピーカーインピーダンス
フロント A と B:　6 ～ 16 Ω
フロント B:　6 ～ 16 Ω

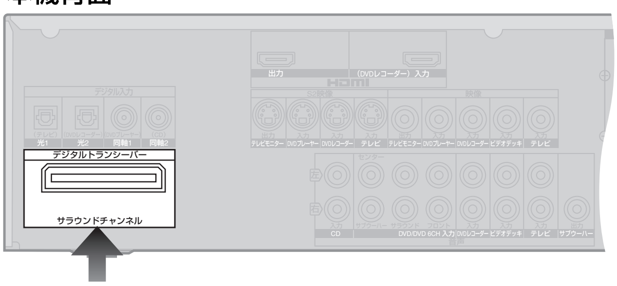
お知らせ

- フロント B 端子に接続したスピーカーで音声を楽しむときは、スピーカーB を選択してください。（➔ 18）
- スピーカーBのみ選択すると、2チャンネルの再生になります。マルチチャンネルソースを再生すると、2チャンネルに集約して、左右フロントスピーカーから出力されます。（2CH MIX（チャンネルミックス））

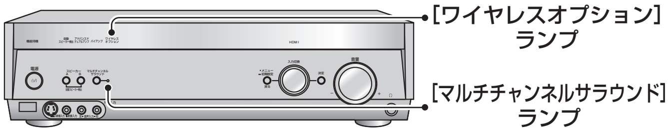
SH-FX60 でサラウンドスピーカーをワイヤレスにする

本機では、当社製 SH-FX60（デジタルトランシーバーとワイヤレスシステムのセット：別売）を使用して、左右サラウンドスピーカーをワイヤレスで楽しめます。
本機のデジタルトランシーバー端子にデジタルトランシーバーを差し込み、サラウンドスピーカーを SH-FX60 ワイヤレスシステムに接続します。詳しくは、SH-FX60 の取扱説明書をご覧ください。

本機背面



デジタルトランシーバーが挿入されているときは [ワイヤレスオプション] ランプが点灯します。



ただし、以下の場合は点灯しません。
消灯： • [マルチチャンネルサラウンド] ランプが消灯しているとき
• サラウンドスピーカーを「無（“***NONE***”）」の設定にしているとき（➔ 31）
点滅： 電波が途切れているとき（SH-FX60の電源が切れているとき）

お知らせ

- サラウンドスピーカーをワイヤレスにした場合の音声出力は、以下のようになります。
  - 最大で、5.1 チャンネル再生になります。サラウンドバックスピーカーは使用できません。サラウンドバックの音声は左右サラウンドスピーカーに分配されて出力されます。
  - 本機の左右サラウンド端子からは、音声は出力されません。（[ワイヤレスオプション] ランプが点滅時も出力されません。）
- デジタルトランシーバーを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切ってください。

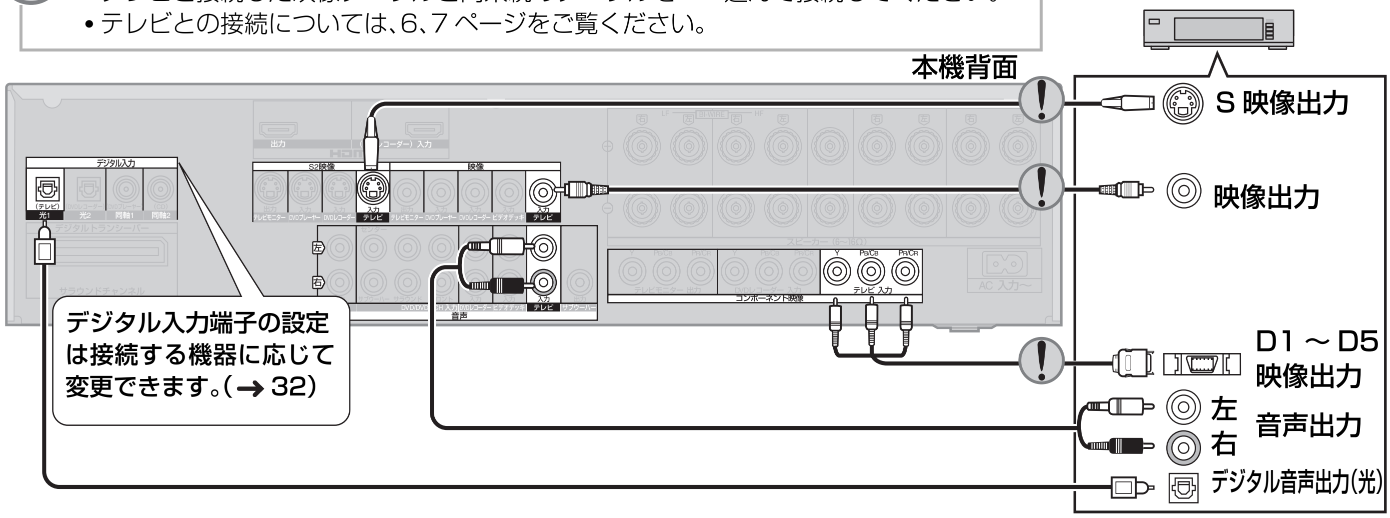
他の機器の接続

- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 接続する各機器の説明書もご覧ください。
- 本機の上には物を載せないでください。

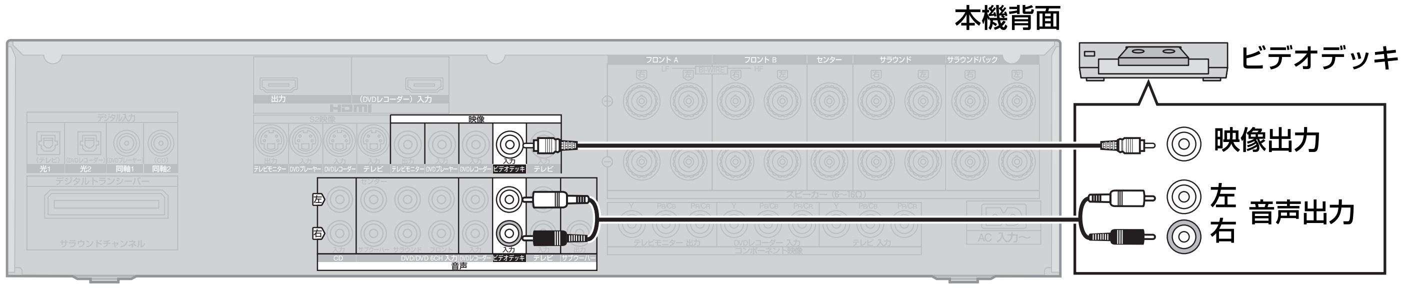
BS デジタルチューナーや CS チューナーなどと接続する

デジタル音声出力（光）とアナログ音声出力のいずれかを接続するだけで、音声は出力されます。お持ちの機器やお好みに合わせて接続してください。

- テレビと接続した映像ケーブルと同系統のケーブルを一つ選んで接続してください。
- テレビとの接続については、6、7 ページをご覧ください。



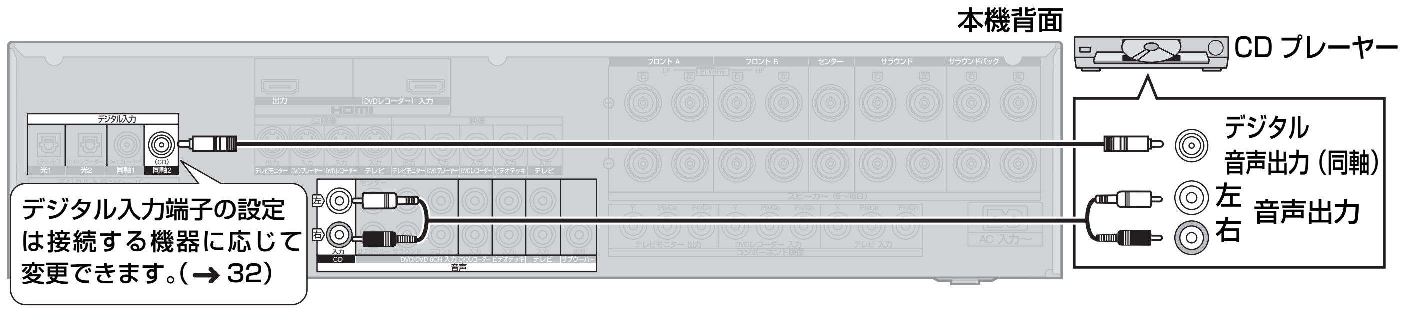
ビデオデッキと接続する



テレビ、DVD レコーダーを接続する場合は、**「標準的な画質で楽しむ」**(→ 7)の接続を行ってください。
「高画質で楽しむ」(→ 6)の接続では、ビデオデッキの映像は出力されません。

CD プレーヤーと接続する

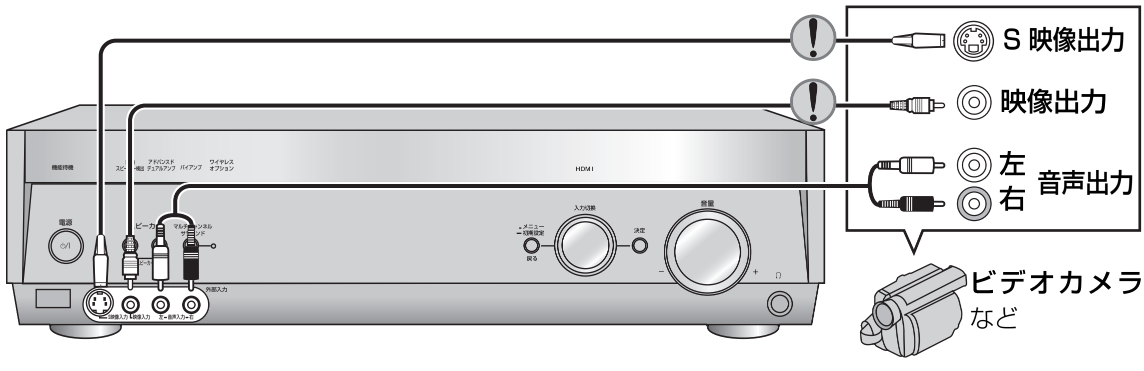
デジタル音声出力(同軸)とアナログ音声出力のいずれかを接続するだけで、音声は出力されます。お持ちの機器やお好みに合わせて接続してください。



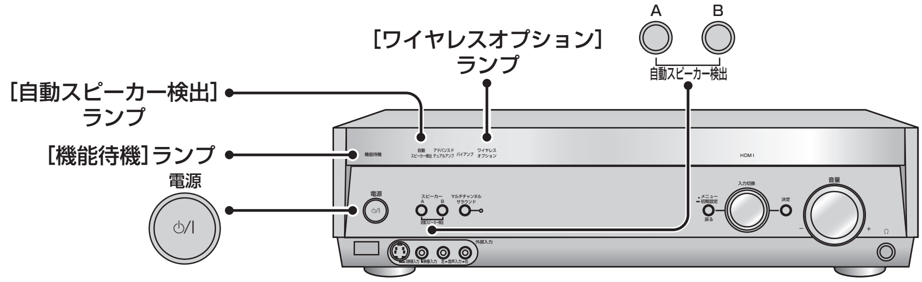
ビデオカメラやゲーム機などと接続する

一時的に接続したい場合に便利です。

- テレビと接続した映像ケーブルと同系統のケーブルを一つ選んで接続してください。
- テレビとの接続については、6、7ページをご覧ください。



再生する前に





スピーカーの有無を自動で検出する

各スピーカーが接続されているかどうかを調べ、スピーカーの有無を自動的に設定します。
スピーカーを新しく接続し直したときなどには、この操作をしてください。
この操作をしない場合は、スピーカー7 本とサブウーハー1 本を接続している設定（初期設定）になります。
手動で設定することもできます。（「スピーカーの有無とサイズを設定する」（→ 31））

1 本機の電源を入れる

電源 を押す

• 電源を入れると[機能待機]ランプが消灯します。



2 スピーカーの有無を調べる

A と B を同時に押す



スピーカーの自動検出が開始します。
（自動スピーカー検出ランプが点滅します）

LCR S SB W …… センター、サラウンド、サラウンドバック、サブウーハーを順に検出していきます。
（フロントスピーカーは常に接続が「有」となります。）

↓

7 SPEAKERS …… 検出されたスピーカーの数が表示されます。
（サブウーハーを除く）

↓

LCR S SB W …… 接続されているスピーカーが表示されます。

↓

DVR …… 元の表示に戻ります。

（終了すると[自動スピーカー検出]ランプが消灯します）

スピーカー表示

L: フロント（左）　***C***:センター　***R***:フロント（右）　***S***: サラウンド
SB: サラウンドバック　***W***:サブウーハー

☞ SH-FX60 でサラウンドスピーカーをワイヤレスにしている場合（→ 12）
スピーカーの自動検出をすると“***S***”が「有」になります。

検出結果により、警告表示が出ることがあります。（***WARNING***（ワーニング））

CHECK CONNECTION TO SBL SPEAKER	左のサラウンドバックスピーカーが検出できません。1本のみ接続する場合は、左に接続してください。（→ 11）
NEED TO CONNECT LS/RS SPEAKERS	左右サラウンドスピーカーが検出できません。サラウンドバックスピーカーを接続するときは、サラウンドスピーカーも接続してください。
CHECK CONNECTIONS TO LS/RS SPEAKERS	サラウンドスピーカーの左右どちらかが検出できません。接続を確認してください。

お知らせ

• スピーカー、ケーブルなどによっては、うまく検出できない場合があります。
その場合は、手動でスピーカーの設定を行ってください。（→ 31）
• 電源を切っても、設定は記憶されます。

スピーカーのサイズについて（→ 31）
スピーカーのサイズは“***SMALL***”が初期設定です。
“***SMALL***”の場合は再生できる周波数に応じて、低域フィルターの周波数が設定できます。（購入時は 100 Hz に設定されています。）
“***LARGE***”に変更する場合は、「スピーカーの有無とサイズを設定する」をご覧ください。



スピーカーの音声出力の確認と音量調整をする

接続したスピーカーから音が出力されているかを確認します。
視聴位置で、フロントスピーカーの音と各スピーカーの音がバランスよく聞こえるように、スピーカーの出力レベルを調整します。

1 スピーカーA を選ぶ

スピーカー A を押す

A のみ選択　スピーカー A　または　A、B とも選択　スピーカー A B

• スピーカーB のみ選択されているときは、テスト信号は出力されません。

> バイワイヤー接続の場合(➔ 12)
> 「バイワイヤー接続の設定をする」で、"*YES*" にする(➔ 31)
>
> スピーカー A または スピーカー B を押す
>
> スピーカー BI-WIRE A B

2 テスト信号で音声出力を確認する

テスト を押す

TEST L
スピーカー表示

• 約 2 秒間隔で下記の順にテスト信号が出力されます。
L*→*C*→*R*→*RS*→*SBR*→*SBL*→*LS*→*SUBW
または、***L*→*C*→*R*→*RS*→*SB*→*LS*→*SUBW***
(サラウンドバックスピーカー1 本接続時)
• 接続していない(➔ 11、14)、または、手動で未接続として設定したスピーカー(➔ 31)の場合、テスト信号は出力されません。

スピーカー表示

- ***L***: フロント(左)
- ***C***: センター
- ***R***: フロント(右)
- ***RS***: サラウンド(右)
- ***LS***: サラウンド(左)
- ***SBR***: サラウンドバック(右)
- ***SBL***: サラウンドバック(左)
- ***SB***: サラウンドバック(1 本接続時)
- ***SUBW***: サブウーハー

3 フロントスピーカーを通常聞く音量にする

＋ 音量 − を押す

VOL --50dB

音量の範囲:
-- dB(最小), ***–79dB*** 〜 ***0dB***(最大)

4 調整するスピーカーを選ぶ

レベル を押して、各スピーカーを選ぶ

C 0dB
スピーカー表示

5 各スピーカーの音量を調整する

◀ − ▶ ＋ を押す

手順 4 と 5 を繰り返して各スピーカーを調整する

C +4dB

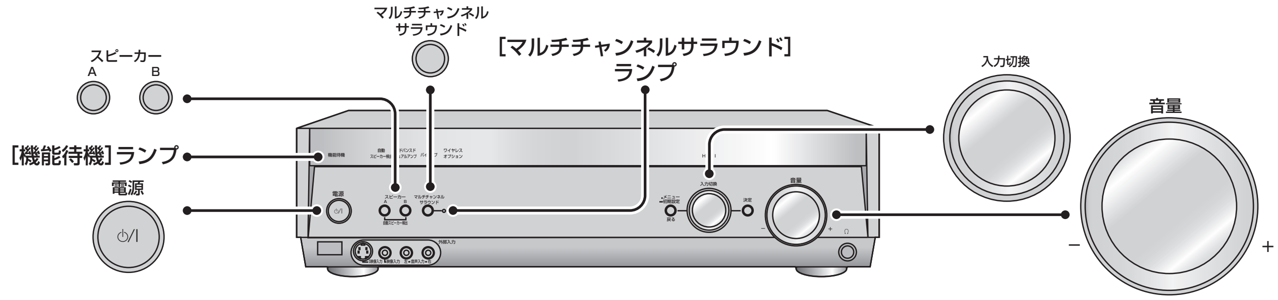
調整範囲:
–10 dB 〜 ***+10 dB*** (初期設定: ***0 dB***)
SUBW のみ:
MIN (最小) ↔ ***1*** 〜 ***19*** ↔ ***MAX*** (最大)
(初期設定: ***10***)

• 手順 4 と 5 では調整しているスピーカーからのみテスト信号が出力されます。
操作後約 2 秒経つと、再び順に出力されます。

6 テスト信号を止める

テスト を押す

ホームシアターを楽しむ



基本の再生

1 本機の電源を入れる



を押す

[マルチチャンネルサラウンド]ランプが点灯します。
(初期設定)

マルチチャンネル
サラウンド

• 電源を入れると [機能待機] ランプが消えます。

機能待機 ➡ 機能待機

◯◯お知らせ◯◯

初めて再生する場合やスピーカーの数を変更した場合は、必ずスピーカーの有無を検出してください。(➔ 14)

2 スピーカーA を選ぶ

スピーカー
A

を押す

スピーカー
A

◯◯お知らせ◯◯

スピーカーB を使用する場合は、[スピーカーB]を押してください。(スピーカーB は、2チャンネルのみの再生になります。)

☞ バイワイヤー接続の場合(➔ 12)
「バイワイヤー接続の設定をする」で、
"*YES*"にする(➔ 31)

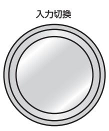
スピーカー A **または** スピーカー B **を押す**

スピーカー
BI-WIRE
A B

◯◯お知らせ◯◯

バイアンプステレオサウンドを楽しむ
(➔ 18)

3 [入力切換] で 入力ソース(音源)を選ぶ



を回す

DVR
(初期設定)

入力ソース:
CD、***TV***、***DVD***、***DVR***、***VCR***(ビデオ)、***AUX***(外部入力)
• ***DVR***(DVD レコーダー)の場合、表示後に"***DVD RECORDER***"と一度表示が流れます。

◯◯お知らせ◯◯

リモコンでも、入力ソースの切り換えができます。(➔ 4)

☞ ビデオデッキ一体型 DVD レコーダーの場合(➔ 9)
• DVD を楽しむとき:"***DVR***"に合わせる
• ビデオを楽しむとき:"***VCR***"に合わせる

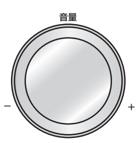
4 入力ソース(音源)を再生する

[マルチチャンネルサラウンド] を押して、「切」にすると 2 チャンネルステレオ再生になります。
サラウンド再生に戻す場合は、再び [マルチチャンネルサラウンド] を押して「入」にします。

◯◯お知らせ◯◯

• [マルチチャンネルサラウンド]の「入/切」は、入力ソースごとに記憶されますが、マルチチャンネルソースの時は常に「入」になります。
• マルチチャンネルソースを再生中に [マルチチャンネルサラウンド] を「切」にすると、2 チャンネルミックス(2CH MIX)になります。(DVD オーディオのダウンミックス禁止ソースを除く)
2 チャンネルミックスは電源を「切」にしたり、入力ソースを切り換えたりした場合、解除されます。

5 音量を調整する



を回す

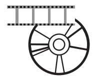
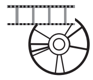
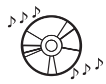
VOL --50dB

音量の範囲:
-- dB(最小), ***−79dB*** ~ ***0 dB***(最大)

再生を楽しんだ後は

音量を下げてから[⏻/I 電源] を押し、電源を切ってください。

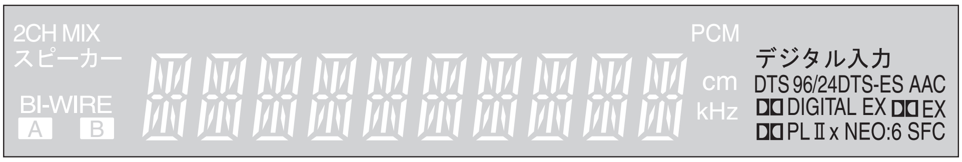
本機で再生できるデジタル信号

エーエーシー AAC	BS デジタル放送などに採用されている圧縮音声です。 マルチチャンネルのサラウンド音声を再生できます。		BS デジタル放送など
ドルビー デジタル Dolby Digital ドルビー デジタル (Dolby Digital サラウンド イーエックス Surround EX も含む)	ドルビー研究所が開発したデジタルサラウンドシステムです。 Dolby Digital Surround EX では、従来の 5.1 チャンネル方式に加え、サラウンドバックチャンネルを用いることで、さらに臨場感のある音場を作り出します。		DVD など
ディーティーエス DTS ディーティーエス イーエス ディーティーエス (DTS -ES、DTS 96/24 も含む)	DTS 社が開発したデジタルサラウンドシステムです。 DTS-ES では、従来の 5.1 チャンネル方式に加え、サラウンドバックチャンネルを用いることで、さらに臨場感のある音場を作り出します。DTS 96 / 24 では、96 kHz / 24 bit の高音質な音声をマルチチャンネルで再生します。		DVD など
ピーシーエム PCM	本機では、同軸 1 デジタル入力端子は 192 kHz まで、その他のデジタル入力端子は 96 kHz まで再生できます。 88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz の周波数を持つ信号が入力されると、その周波数が表示部に出ます。		CD や DVD オーディオ など

お知らせ

ドルビーデジタル RF 信号や、MPEG 音声信号は再生できません。

音声信号のディスプレイ表示



DIGITAL: ドルビーデジタルデコーダーが動作しているとき

DIGITAL EX: ドルビーデジタルの 5.1 チャンネルやドルビーデジタルサラウンド EX にドルビーデジタル EX デコーダー（ドルビープロロジック IIx デコーダー）が動作しているとき（サラウンドバックスピーカーを1本接続している場合のみ表示）

EX: DTS や AAC の 5.1 チャンネルにドルビーデジタル EX デコーダー（ドルビープロロジック IIx デコーダー）が動作しているとき（サラウンドバックスピーカーを1本接続している場合のみ表示）

PL IIx: ドルビープロロジック IIx デコーダーを使用しているとき

AAC: AAC デコーダーが動作しているとき

PL II: サラウンドバックスピーカーが「無」の場合に、2 チャンネルのステレオソースにドルビープロロジック IIx を使用すると表示されます。（ドルビープロロジック II デコーダーを使用しています）

DTS: DTS デコーダーが動作しているとき

DTS 96 / 24: DTS 96 / 24 デコーダーが動作しているとき

DTS-ES: DTS-ES ディスクリートデコーダーやマトリックスデコーダーが動作しているとき

NEO:6: DTS NEO:6 マトリックスデコーダーを使用しているとき

SFC: SFC 機能を使用しているとき

お知らせ

- ドルビープロロジック IIx、NEO:6、SFC を「切」にした場合、ソースに記録されたチャンネル数でスピーカーに出力されます。
  （例）5.1 チャンネルソースならフロント、センター、サラウンド、サブウーハーから出力され、サラウンドバックは無音になります。
- 入力ソースが PCM 192 kHz の場合は、[マルチチャンネルサラウンド] は自動的に「切」になります。
- 入力ソースが切り換わった場合、ソースのチャンネル数が表示部に出ます。（ソースによっては表示されないこともあります。）

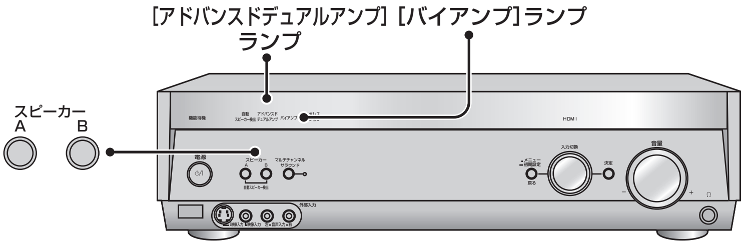


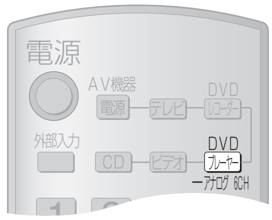
サブウーハー
サラウンド、サラウンドバックのチャンネル数
フロント、センターのチャンネル数

楽しむ

ホームシアターを楽しむ

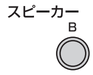
その他の再生





スピーカーB を使う

フロント B 端子に接続したスピーカーから音声を出力します。



を押す

◯◯お知らせ◯◯

- スピーカーB は、2 チャンネルのみの再生になります。
- スピーカーB のみ選択している場合に、入力ソースがマルチチャンネルであれば、“2CH MIX”が表示されます。
- フロントA端子に接続したスピーカーの音を消したい場合は、[スピーカーA]を押して“ A ”を消してください。
- DVD アナログ 6CH 接続をしているときは、フロント 2 チャンネルの音声が出力されます。
- スピーカーBのみ選択している場合、**「スピーカーの有無とサイズを設定する」(→ 31)**の設定に関わらず、以下の動作状態に固定されます。
  スピーカーのサイズ: ***“LARGE ”***（ラージ）
  サブウーハー: ***“NO ”***（無し）（低域成分はフロントスピーカーから出力されます）

アドバンスドデュアルアンプ

2 チャンネルステレオ再生や 5.1 チャンネル再生した場合に自動的に機能します。
使用されていないサラウンドバック用のアンプを利用して、1 つのスピーカーを 2 つのアンプで駆動する機能です。
通常の再生よりも明瞭で高音質なサウンドが楽しめます。

- 機能が働いているときは [アドバンスドデュアルアンプ] ランプが点灯します。

◯◯お知らせ◯◯

アドバンスドデュアルアンプ機能が働かないようにすることもできます。**(→ 33)**

バイアンプ

バイワイヤー接続のとき、アナログ音声や 2 チャンネルの PCM 信号を再生させると自動的に機能します。
フロント用とサラウンド用のアンプを利用して、スピーカーの高周波域と低周波域を別々に駆動する機能です。
バイアンプ動作時もアドバンスドデュアルアンプ機能**(→ 上記)**が使用可能です。この場合、より明瞭で高音質なステレオサウンドを楽しむことができます。

準備

- バイワイヤー接続する。**(→ 12)**
- **「バイワイヤー接続の設定をする」**で、“ ***YES***” にする**(→ 31)**
- マルチチャンネルサラウンドを「切」にする**(→ 16)**

◯◯お知らせ◯◯

DVD アナログ 6CH**(→ 下記)**のときはバイアンプ機能は使用できません。

- 機能が働いているときは [バイアンプランプ] が点灯します。
- **「バイアンプの設定をする」(→ 32)**

DVD オーディオの再生

デジタル接続で楽しむ

DVD レコーダーや DVD プレーヤーを HDMI 接続**(→ 5)**かデジタル接続（同軸1）**(→ 6、7)**で接続してください。

HDMI 入力からの音声信号が DVD オーディオマルチチャンネルの場合、スピーカーの設定**(→ 14、31)**は無効になります。DVD レコーダー、DVD プレーヤー側でスピーカーのサイズや距離の設定をしてください。

DVD アナログ 6CH

準備

- アナログ 6CH 接続する。**(→ 8)**
- [スピーカー A]を押す。または、バイワイヤースピーカーを「入」の状態にして、入力ソースを“***DVD***” にする。**(→ 16)**

“DVD 6CH ”**が表示されるまで**



を押したままにする



- 解除するには“***DVD***” が表示されるまで、押したままにする

☞ **DVDレコーダーと接続している場合**
入力ソースを“***DVR***”にしていると、再生できません。アナログ 6CH 接続をして、“***DVD***” に切り換えてください。

◯◯お知らせ◯◯

本機でのスピーカーの設定**(→ 14、31)**は無効になります。DVD レコーダー、DVD プレーヤー側で、スピーカーのサイズや距離の設定をしてください。

2 チャンネルアナログ音声を高音質で楽しむ

サンプリング周波数が 192 kHz で 2 チャンネルソースのDVDオーディオを高音質なステレオサウンドで楽しめます。

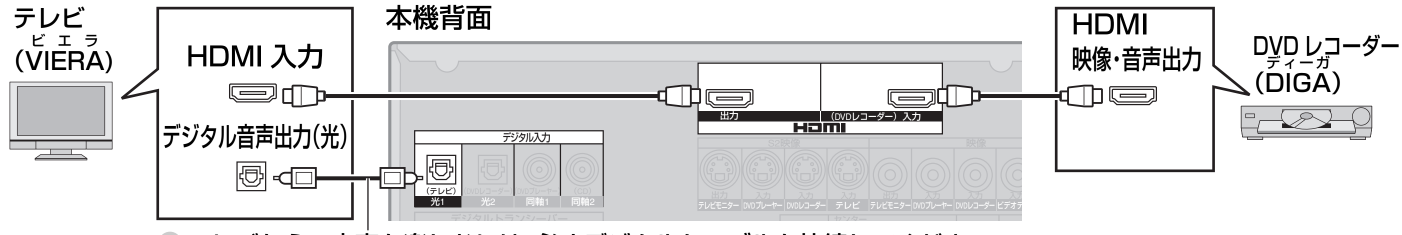
1 **“*DVD 6CH* ”を解除してください。(→ 上記)**
2 **「入力信号の設定をする」で、入力信号をアナログに固定してください。(→ 32)**

VIERA Link (HDAVI Control) を使う

VIERA Link (HDAVI Control)とは

VIERA Link (HDAVI Control) 機能に対応した当社製テレビ(VIERA)、DVD レコーダー(DIGA)を HDMI ケーブルで接続することにより、テレビや DVD レコーダーとの連動操作が可能になる便利な機能です。各機器の詳しい操作については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

準備 1. 本機と VIERA Link (HDAVI Control) 機能に対応したテレビ(VIERA)、DVD レコーダー(DIGA)を HDMI ケーブルで接続する。(➜ 5)(当社製 HDMI ケーブルを推奨します。HDMI 規格に準拠していないケーブルでは動作しません。)



- テレビからの音声を楽しむには、必ずデジタルケーブルを接続してください。

2. テレビ(VIERA) のメニュー操作で VIERA Link (HDAVI Control)連動機能を働かせる設定にしてください。
3. すべての機器の電源を入れ、一度テレビの電源を「切/入」したあと、本機の入力切換を "*DVR*" に切り換え、DVD レコーダー(DIGA)の画像がテレビ(VIERA)に正しく映ることを確認してください。(接続や設定を変更した場合にも、この操作をしてください。)



ホームシアターをワンタッチ操作で楽しむ リモコンで

[ワンタッチ再生] を DVD レコーダー(DIGA)に向かって、押す

ボタンを押すだけで、以下の動作が自動で始まります。

1. DVD レコーダーの電源が「入」になり、選択されているドライブ(HDD/DVD など)から再生が始まります。
2. テレビの電源が「入」になり、テレビの入力が切り換わります。
3. 本機の電源が「入」になり、入力ソースが "*DVR*" に切り換わった後、マルチチャンネル再生が始まります。

☞ **音量を調整する場合** [＋ 音量 －] ボタンを押す。
再生中は、テレビ(VIERA) のリモコンでも音量調整ができます。
(音量を調整中は、テレビ画面に本機の音量調整中であることが表示されます。)

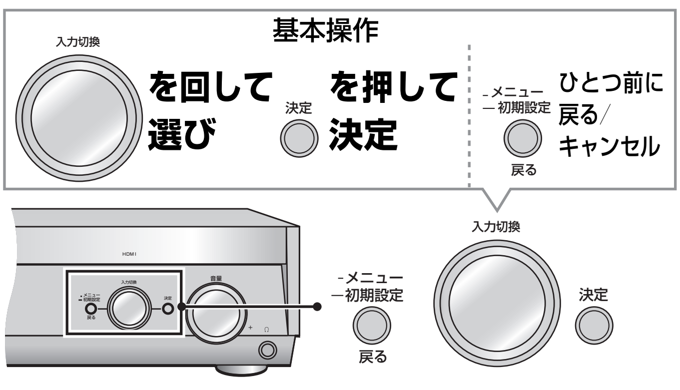
- DVDや録画したテレビ番組の始まりが途切れるような場合には、[⏮ スキップ]を押して、始めから再生してください。

お知らせ

- テレビ(VIERA)の電源を「切」にすると、本機の電源も「切」になります(本機の入力ソースを CD にしている場合は除く)。
- 本機の電源を「切」にすると、音声は自動的にテレビ(VIERA) のスピーカーから出力されます。
また、本機の電源を「入」にすると、DVD レコーダー(DIGA)の音声は、テレビ(VIERA) のスピーカーから出なくなり、本機のスピーカーから出るようになります。
- 本機の電源が「切」のとき、テレビ(VIERA) で音声を AV アンプから出力する設定にすると、本機の電源が「入」になり、本機と接続したスピーカーから音が出るようになります。
- DVD レコーダーを再生すると、本機の入力切換が自動で "*DVR*" に切り換わります。
- 音声が映像とずれて聞こえる場合には、**「音声を映像よりも遅らせて出力する」(➜ 33)**で設定を "*ON*" にしてください。

☞ **テレビからの音声を楽しむ場合**
チャンネル選択などテレビの操作(➜ 20)を行うと、本機の入力ソースが "*TV*" に切り換わります。

VIERA Link (HDAVI Control) を使わない設定にする 本体で



1 [- メニュー/一初期設定] を約 2 秒間押したままにする

2 HDMI **を選び、決定**

3 CTRL ON **を選び、決定**

4 CTRL OFF **を選び、決定**

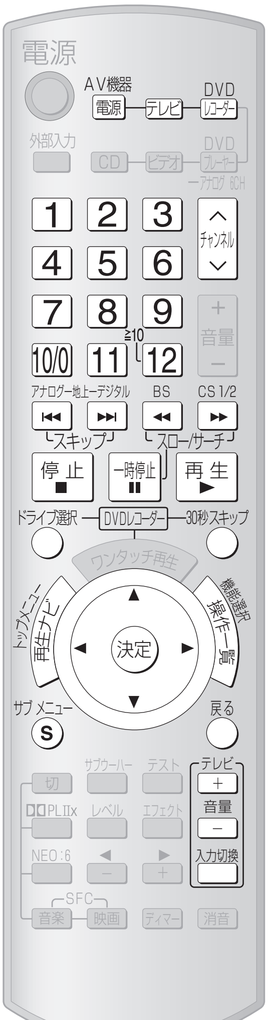
OFF:連携しないとき
ON:連携するとき(初期設定)

5 EXIT **を選び、操作を終える**

リモコンでテレビやDVDレコーダーなどを操作する

本機の他、**当社製**のテレビ、DVD レコーダー、DVD プレーヤー、ビデオデッキ、および CD プレーヤーを本機のリモコンで操作できます。(ただし操作のできない機種もあります。)各操作についての詳細は、それぞれの機器の説明書をご覧ください。

操作する機器に向けて





テレビを操作する

本機の入力を"*TV*"に切り換える/リモコンをテレビ操作モードに切り換える	[テレビ] テレビ操作の前に必ず行ってください。
テレビの電源を入/切する	AV機器 [電源]
テレビのテレビ/ビデオ入力を切り換える	入力切換 [ ]
テレビの音量を調整する	[+] 音量 [−]
地上デジタル放送に切り換える	地上−デジタル [▶▶I]
BS 放送に切り換える	BS [◀◀]
CS 放送に切り換える	CS 1/2 [▶▶] • 押すたびに、CS1 と CS2 が切り換わります。
地上アナログ放送に切り換える	アナログ−地上 [I◀◀]
チャンネルを選ぶ	(順に選ぶとき) [∧ チャンネル ∨] (直接選ぶとき) [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9] [10/0] [11] [12] (≧10)

☞ **テレビのチャンネルが操作できない場合**

- 地上アナログ放送のみ対応のテレビの場合、他の放送切り換えボタンを押すと、テレビのチャンネルが操作できなくなります。
  再度、[I◀◀ アナログ - 地上] ボタンを押して、アナログ放送に切り換えてください。

DVD レコーダーを操作する

本機の入力を"*DVR*"に切り換える/リモコンを DVD レコーダー操作モードに切り換える	DVD レコーダー DVD レコーダー操作の前に必ず行ってください。
DVD レコーダーの電源を入/切する	AV機器 電源
トラックやチャプターを飛び越す(スキップ)	⏮ ⏭ スキップ
見たい場所を探す(サーチ)	◀◀ ▶▶ スロー/サーチ
スロー再生	一時停止 ❚❚ ▼ ◀◀ ▶▶ スロー/サーチ
再生を始める	再生 ▶
再生ナビ(またはトップメニュー)を表示する	トップメニュー 再生ナビ
サブメニューを表示する	サブ メニュー S
機能選択/操作一覧画面を表示する(停止中)	機能選択 操作一覧
前の画面に戻る	戻る
項目を選ぶ	[再生ナビ、トップメニュー]、[サブメニュー]や[操作一覧/機能選択]を押した後に操作してください。 ▲ ▼ ◀ ▶

選んだ項目を実行する	決定
トラックやチャプターを直接選ぶ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10/0 ≧10 12 • 数字ボタンを押した後、[決定] を押して実行する機種もあります。
一時停止する	一時停止 ❚❚
コマ戻し/コマ送りする	一時停止 ❚❚ ▼ ◀ ▶
30 秒先にスキップする	30秒スキップ
DVD レコーダーのドライブ(ハードディスク、ディスク、SD など)を切り換える	ドライブ選択
チャンネルを選ぶ	(順に選ぶとき) ∧ チャンネル ∨ (直接選ぶとき) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10/0 11 ≧10 12
再生を停止する	停止 ■

本機のリモコンで当社製の DVD レコーダーを操作する場合

DVD レコーダーと本機のリモコンのリモコンモードを一致させてください。

準備

DVD レコーダーの取扱説明書に従って、DVD レコーダーのリモコンモード番号を確認する。

1 [DVD レコーダー] を押す

2 [決定] を押したまま [1]、[2] または [3] を約 2 秒間押したままにする

- 押した数字ボタンに応じて、「モード1」、「モード2」または「モード3」がリモコン側に設定されます。
- 初期設定は、「モード 1」です。

DVD のドライブが切り換わらない場合

DVD レコーダー側が、本機のリモコンの出す信号を認識していない可能性があります。
下記の操作で信号を変更して、もう一度切り換えてみてください。

1 [DVD レコーダー] を押す

2 [決定] を押したまま、[8] を約 2 秒間押したままにする

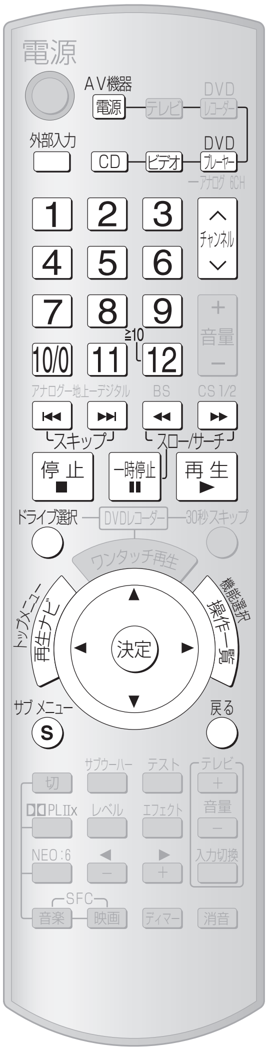
元に戻す場合は:
上記手順 2 の操作で、[決定] を押しながら [9] を約 2 秒間押したままにする

お知らせ

ビデオデッキ一体型 DVD レコーダーを操作する場合は、[ドライブ選択] で、<u>VHS 以外</u>を選択してください。

リモコンでテレビやDVDレコーダーなどを操作する（つづき）

操作する機器に向けて



DVD プレーヤーを操作する

本機の入力を“*DVD*”に切り換える/リモコンをDVD プレーヤー操作モードに切り換える	DVD プレーヤー DVD プレーヤー操作の前に必ず行ってください。
DVD プレーヤーの電源を入/切する	AV機器 電源
トラックやチャプターを飛び越す(スキップ)	⏮ ⏭ スキップ
見たい場所を探す(サーチ)	◀◀ ▶▶ スロー/サーチ
スロー再生	一時停止 ▮▮ ▼ ◀◀ ▶▶ スロー/サーチ
再生を始める	再生 ▶
再生ナビ(またはトップメニュー)を表示する	トップメニュー 再生ナビ
サブメニューを表示する	サブ メニュー S
機能選択/操作一覧画面を表示する(停止中)	機能選択 操作一覧
前の画面に戻る	戻る
項目を選ぶ	[再生ナビ、トップメニュー]、[サブメニュー]や[操作一覧/機能選択]を押した後に操作してください。 ▲ ▼ ◀ ▶

選んだ項目を実行する	決定
トラックやチャプターを直接選ぶ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10/0 ≧10 12 • 数字ボタンを押した後、[決定]を押して実行する機種もあります。
一時停止する	一時停止 ▮▮
コマ戻し／コマ送りする	一時停止 ▮▮ ▼ ◀ ▶
再生を停止する	停止 ■

お知らせ

当社製の DVD プレーヤーには、[操作一覧/機能選択]ボタンで、画面表示(DISPLAY)機能が動作する機種もあります。

ビデオデッキを操作する

本機の入力を“VCR”に切り換える/リモコンをビデオデッキ操作モードに切り換える	[ビデオ] ビデオデッキ操作の前に必ず行ってください。
ビデオデッキの電源を入/切する	AV機器 [電源]
再生を始める	[再生 ▶]
巻き戻し/早送りをする	[◀◀] [▶▶] スロー/サーチ
一時停止する	[一時停止 ❚❚]
チャンネルを選ぶ	（順に選ぶとき） [∧ チャンネル ∨] （直接選ぶとき） [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9] [10/0] [11] [12] (≧10)
再生を停止する	[停止 ■]

○○お知らせ○○

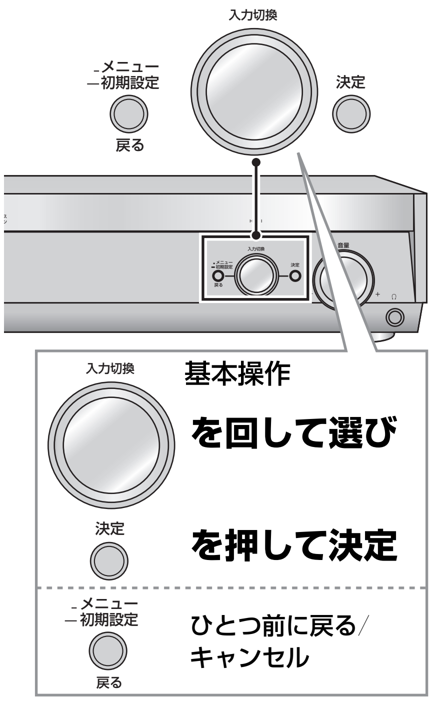
ビデオデッキ一体型 DVD レコーダーを操作する場合は、[ドライブ選択] で、VHS を選択してください。

CDプレーヤーを操作する

本機の入力を“CD”に切り換える/リモコンをCDプレーヤー操作モードに切り換える	[CD] CD プレーヤー操作の前に必ず行ってください。
CDプレーヤーの電源を入/切する	AV機器 [電源]
再生を始める	[再生 ▶]
トラックを飛び越す（スキップ）	[I◀◀] [▶▶I] スキップ
聞きたい場所を探す（サーチ）	[◀◀] [▶▶] スロー/サーチ
一時停止する	[一時停止 ❚❚]
トラックを直接選ぶ	[1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9] [10/0] [12] (≧10)
再生を停止する	[停止 ■]

リモコンコードを変更する

2 つ以上の当社製オーディオ機器を使う場合に、本機のリモコンを使用すると複数の機器が動作する場合があります。
その場合は、本機のリモコンコードを“***REMOTE 2***”に切り換えてください。
この操作で、本体とリモコンのコードを同じ番号に設定します。



本体側操作

1 「初期設定」に入る

[メニュー 初期設定 / 戻る] **を約 2 秒間押したままにする**

2 [REMOTE 1] **を選び、決定**

3 [REMOTE 2] **を選び、決定**

4 [EXIT] **を選び、操作を終える**

リモコン側操作

5 [外部入力] **を押す**

6 [決定] **と** [2] **を同時に約 2 秒間押したままにする**

☞ リモコンコードを「1」に戻す場合
- 本体側：上記手順 3 で“*1*”を選ぶ
- リモコン側：上記手順6で［決定］と［1］を同時に約 2 秒間以上押したままにする

テレビや DVD などをサラウンド音声で聞く

サラウンド効果を加えたり、2 チャンネルのステレオソースをマルチチャンネルで聞くことができます。



DOLBY PRO LOGIC IIx（ドルビー プロ ロジック）

- 2 チャンネルのステレオソース（音源）をマルチチャンネルで楽しめます。
- ドルビーデジタル、DTS、AACの5.1チャンネルのソース（音源）を7.1チャンネル（サラウンドバック２本接続時）や 6.1 チャンネル（サラウンドバック 1 本接続時）で楽しむことができます。
- ドルビーデジタルサラウンド EX ソースのサラウンドバックチャンネルを有効にします。

[PLIIx] を押して、下記モードを選ぶ

☞ 解除する場合

[切] を押す

MOVIE（ムービー）	特にドルビーサラウンドで記録されたものなど、映画ソフトで効果があります。 サラウンドバックスピーカーを 2 本接続している場合、サラウンドバックはステレオ再生となります。 ご購入時は、このモードになっています。
MUSIC（ミュージック）	音楽ソース（音源）で効果があります。
EX（ドルビーデジタル EX）	特にドルビーデジタルサラウンド EX で記録された映画ソフトで効果があります。 マルチチャンネルソースに対してのみ有効です。 サラウンドバックスピーカーを 2 本接続している場合、サラウンドバックはモノラル再生になります。 • サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続している場合は“PL IIx”が消え、“DIGITAL EX” または、“EX”の表示になります。
GAME（ゲーム）	迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しめます。 2 チャンネルのステレオソースに対して有効です。 ただし、サラウンド、サラウンドバックの各スピーカーが接続されていない（→ 11、14）および「**スピーカーの有無とサイズを設定する**」で「無（“***NONE***”）」に設定している（→ 31）場合は使用できません。



NEO:6（ネオ）

- 2 チャンネルのステレオソース（音源）をマルチチャンネルで楽しめます。
- ドルビーデジタル、DTS、AAC の5.1チャンネルのソース（音源）を6.1チャンネルで楽しむことができます。

[NEO:6] を押して、下記モードを選ぶ

☞ 解除する場合

[切] を押す

CINEMA（シネマ）	映画ソフトで効果があります。
MUSIC（ミュージック）	音楽ソース（音源）で効果があります。

ドルビーデジタル、AAC、DTS の 2 チャンネルのステレオソースでサラウンド情報を持っているソースは“***CINEMA***”モード、サラウンド情報を持っていないソースでは“***MUSIC***”モードが使用できます。

お知らせ

「**スピーカーの有無とサイズを設定する**」（→ 31）で、すべてのスピーカーを“***LARGE***”に設定した場合、2 チャンネルのステレオソースに NEO:6 を使用してもサブウーハーから音声は出力されません。

お知らせ

- ソースによっては、サラウンド効果が使用できない場合があります。
- 各設定は、電源を切っても記憶されます。

SFC（Sound Field Control）（サウンド フィールド コントロール）

ドルビーデジタル、DTS、AAC、アナログや PCM のソース（音源）に好みの臨場感や広がり感を与えたサラウンドが楽しめます。

音楽ソース（音源）で効果があります。

MUSIC
（ミュージック）

[SFC 音楽] を押して、下記モードを選ぶ

各モードは、[SFC 音楽] を押してから、[◀ −] [▶ ＋] を押しても、選べます。

解除する場合 [切] を押す

LIVE（ライブ）	大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がり。
POP/ROCK（ポップ/ロック）	ポピュラーやロック音楽に適した効果。
VOCAL（ボーカル）	ボーカルの声を際立たせる効果。
JAZZ（ジャズ）	ジャズクラブのような狭い部屋での音の反響。
DANCE（ダンス）	ダンスホールのような広い空間で響いている音の広がり感。
PARTY（パーティ）	パーティ会場などでかけられている BGM のように、どこにいてもステレオで音楽が聞こえるような効果。

映画ソフトで効果があります。

MOVIE
（ムービー）

[SFC 映画] を押して、下記モードを選ぶ

各モードは、[SFC 映画] を押してから、[◀ −] [▶ ＋] を押しても、選べます。

解除する場合 [切] を押す

DRAMA（ドラマ）	セリフがメインになるようなドラマに適した効果。
ACTION（アクション）	迫力のあるアクション映画に適した効果。
SPORTS（スポーツ）	スポーツ観戦をしているような臨場感。
MUSICAL（ミュージカル）	ミュージカル劇場にいるような臨場感。
GAME（ゲーム）	迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しむとき。

お知らせ

- センタースピーカーおよびサラウンドスピーカーを接続していない場合は、SFC 機能は使用できません。
- “***PARTY***”モードでは、サラウンドバックスピーカーを1本接続時、センタースピーカーを使用していない場合は、サラウンドバックスピーカーからは音が出ません。
  また、サラウンドバックスピーカーを使用していない場合は、センタースピーカーからは音が出ません。
- 入力ソースとモードの組み合わせによっては、音がひずんだように聞こえることがあります。
  その場合は、**「効果の強弱を調整する」**（➜ 26）で効果のレベルを下げるか、上記の操作で他のモードを選んでください。

リモコンで操作する音質・音場効果や便利な機能

各モードについては、24、25 ページを参照してください。



DOLBY PRO LOGIC IIx（ドルビー プロ ロジック）の“*MUSIC*”をさらに調整する

入力ソース（音源）が 2 チャンネルのステレオのときに使用できます。

DIMEN 0

(Dimension Control/ディメンジョン コントロール)

フロントとサラウンドスピーカーの出力バランスを調整できます。

[エフェクト] を押して“*DIMEN*”を選び、[◀ −] [▶ +] を押して調整する

調整範囲：***–3***（サラウンドが強くなる）～ ***+3***（フロントが強くなる）
初期設定：***0***

C-WIDTH 3

(Center Width Control/センターウイドゥス コントロール)

フロントとセンタースピーカーの音を全体的に調整して、より自然な音楽再生ができます。

[エフェクト] を押して“*C-WIDTH*”を選び、[◀ −] [▶ +] を押して調整する

調整範囲：***0***（センターがはっきりする）～ ***7***（センターが広がる）
初期設定：***3***

PANORAMA

(パノラマ)

さらなる広がりによって音楽に包まれるような感覚が得られます。

[エフェクト] を押して“*PANORAMA*”を選び、[◀ −] [▶ +] を押して“***ON***（入）”または“***OFF***（切）”を選ぶ

初期設定：***OFF***

NEO:6（ネオ）の“*MUSIC*”をさらに調整する

C-IMAGE 2

(Center Image Control/センター イメージ コントロール)

フロントとセンタースピーカーの音を全体的に調整して、より自然な音楽再生ができます。

[エフェクト] を押して“*C-IMAGE*”を選び、[◀ −] [▶ +] を押して調整する

調整範囲：***0***（センターがはっきりする）～ ***5***（センターが広がる）
初期設定：***2***

SFC (Sound Field Control)（サウンド フィールド コントロール）をさらに調整する

出力レベルを調整する

[レベル] を押して各スピーカーを選び

[◀ −] [▶ +] を押して調整する

C（センター）、***RS***（右サラウンド）、***SBR***（右サラウンドバック）、
SBL（左サラウンドバック）（サラウンドバック 1 本時は ***SB***）、***LS***（左サラウンド）
調整範囲：***–10 dB*** ～ ***+10 dB***　初期設定：***0 dB***

SUBW（サブウーハー）
調整範囲：***---***（切）、***MIN***（最小）、***1*** ～ ***19***、***MAX***（最大）　初期設定：***10***

お知らせ

- “***PARTY***”モードにしている場合、サブウーハー以外の各スピーカーのレベル調整はできません。
- 接続されていない（→ 11、14）および「**スピーカーの有無とサイズを設定する**」で無しに設定している（→ 31）スピーカーは調整できません。

効果の強弱を調整する

[エフェクト] を押して、[◀ −] [▶ +] を押して調整する

調整範囲：***EFFECT 1***（最小）～ ***EFFECT 10***（最大）
初期設定：***EFFECT 5***

お知らせ

各設定は、電源を切っても記憶されます。



サブウーハーレベルの調整をする

ソース（音源）を再生中に出力レベルを調整できます。重低音に物足りなさを感じたり、抑えて出力させたいなど、好みにあわせて調整できます。

[サブウーハー] **を押して、選ぶ**



調整範囲：
---（切）、***MIN***（最 小）、***5***、***10***、***15***、***MAX***（最大）

- 初期設定は "***SUBW 10***" です
- "***---***" を選ぶとサブウーハーから音は出ません

お知らせ

- サブウーハーレベルが高い状態で本機の音量を上げると、サブウーハーから出力される音がひずんで聞こえることがあります。この場合はサブウーハーレベルを下げてください。
- 細かく設定したいときは、**「出力レベルを調整する」**（**→ 26**）で、出力レベルを調整してください。

一時的に音を消す

[消音] **を押す**

- 機能が働いている間、表示部に "***MUTING IS ON***" と繰り返し表示　（スクロール）されます。
- もう一度押すと、解除されます。



お知らせ

電源を切ると消音は解除されます。

表示部を暗くする（ディマー）

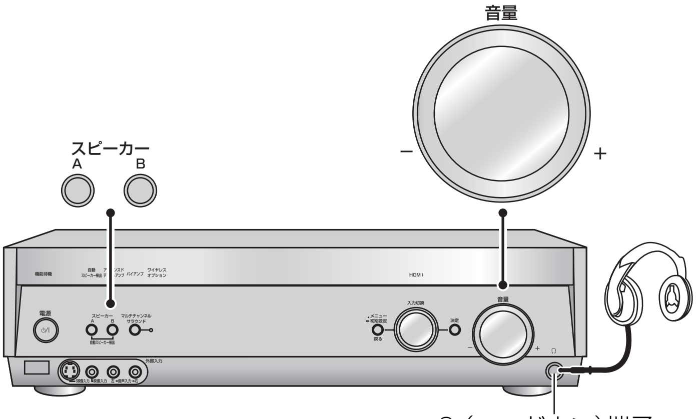
[ディマー] **を押す**

- 押すと、表示部が暗くなります。
- もう一度押すと、解除されます。

お知らせ

本体操作で、表示部の明るさの調整ができます。（**→ 29**）

ヘッドホンを使う



1 [スピーカーA]、[スピーカーB] を押してすべてのスピーカーを「切」にする

スピーカー

2 [音量 −、+] で音量を下げ、ヘッドホンを接続する

プラグタイプ：φ 6.3 mm ステレオ標準プラグ

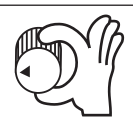
3 [音量 −、+] で音量を調整する

お知らせ

- 耳を刺激するような大きな音で、長時間聞くことは避けてください。
- すべてのスピーカーを「切」にすることで 2 チャンネルのみの再生になり、マルチチャンネルソース（音源）は、強制的に 2CH MIX（2 チャンネルミックス）になります。（DVD オーディオのダウンミックス禁止ソースを除く。）
- アナログ 6CH 接続（**→ 8**）で再生しているときは、「DVD アナログ 6CH」（**→ 18**）は解除されて、フロント 2 チャンネルの音声が出力されます。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。



音のエチケット
シンボルマーク

音質・音場効果/便利な機能



基本の操作

1 「メニュー」に入る

-メニュー —初期設定 戻る を押す

• メニュー画面が表示されます。
例:「低音の調整をする」

BASS 0

2 設定する項目を選ぶ

入力切換 を回して項目を選び、

決定 を押して決定

BASS 0

3 設定をする

入力切換 を回して設定し、

決定 を押して決定

BASS 0

4 設定を終える

-メニュー —初期設定 戻る を数回押して “*EXIT*”を選び

EXIT

決定 を押して決定

• 元の表示に戻ります
• “***EXIT***”は [入力切換] を回すことでも選べます。

ひとつ前に戻る/キャンセルする

-メニュー —初期設定 戻る を押す

低音の調整をする

• BASS(低音)を調整できます。

1 BASS 0 **を選び、決定**

2 調整し、決定

BASS 0

調整範囲：***–10 dB*** ～ ***+10 dB***
初期設定：***0 dB***

高音の調整をする

• TREBLE(高音)を調整できます。

1 TREBLE 0 **を選び、決定**

2 調整し、決定

TREBLE 0

調整範囲：***–10 dB*** ～ ***+10 dB***
初期設定：***0 dB***

音量バランスの調整をする

• 左右フロントスピーカーの出力バランスを調整できます。

1 BALANCE **を選び、決定**

2 調整し、決定

L R

バーの表示は目安です。

L：左フロント　***R***：右フロント

お知らせ

SFCの“***PARTY***”モード（→ 25）を使用している場合は、音量バランスの調整はできません。

二重音声を切り換える

• BSデジタル放送のAAC信号やドルビーデジタル、DTSの二重音声を切り換えることができます。

二重音声信号を受信すると表示部に“***DUAL PRG***”と表示されます。

1 DUAL MAIN **を選び、決定**

2 音声を選び、決定

DUAL MAIN

MAIN：主音声（初期設定）
SUB：副音声
M+S：主＋副音声

表示部の明るさを調整する

• 部屋を暗くして、映画を見るときなどに便利です。

1 DIMMER OFF **を選び、決定**

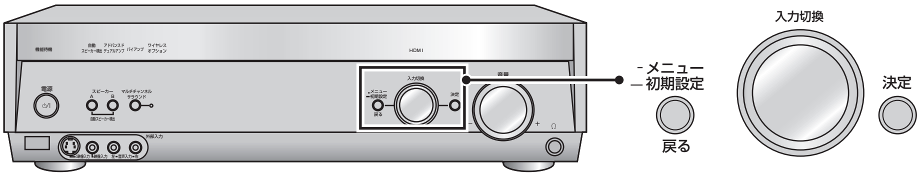
2 設定を選び、決定

DIMMER 1

• 解除するには“***DIMMER OFF***”を選ぶ。

調整範囲：***DIMMER 1***（明）～ ***DIMMER 3***（暗）
初期設定：***OFF***

アンプの設定をする



基本の操作

1 「初期設定」に入る

-メニュー —初期設定 / 戻る **を約 2 秒間押したままにする**

• 初期設定画面が表示されます。
例:「スピーカーの有無とサイズを設定する」

SPK SIZE

2 設定する項目を選ぶ

入力切換 **を回して項目を選び、**

決定 **を押して決定**

SUBW NO

• 設定によっては、この操作を数回繰り返します。

3 設定をする

入力切換 **を回して設定し、**

決定 **を押して決定**

SUBW NO

4 設定を終える

-メニュー —初期設定 / 戻る **を数回押して“*EXIT*”を選び**

EXIT

決定 **を押して決定**

• 元の表示に戻ります。
• “***EXIT***”は [入力切換] を回すことでも選べます。



☞ ひとつ前に戻る/キャンセルする

-メニュー —初期設定 / 戻る **を押す**

スピーカーの有無とサイズを設定する

- 接続しているスピーカーの有無とサイズの設定を手動で設定できます。
- スピーカーにより再生できる周波数帯域は異なります。特に低音域を不足することなく再生させるためにサイズの設定を行います。

1 SPK SIZE **を選び、決定**

2 設定するスピーカーを選び、決定

SUBW　NO

3 設定を変更し、決定

SUBW　NO

LR（フロント）を"LARGE"にした場合
- アナログや PCM ソースをステレオで再生している場合、サブウーハーからも低音域の音声が出力されます。
- ドルビーデジタル、DTS、AAC の 2 チャンネルのソースをステレオで再生している場合、ソースに含まれる LFE（重低音効果チャンネル）信号以外は、サブウーハーから出力されません。

SUBW: サブウーハー
LR: フロントスピーカー
C: センタースピーカー
S: サラウンドスピーカー
SB: サラウンドバックスピーカー

SUBW（サブウーハー）
　NO:接続していない　***YES***:接続している
LR(フロント)、***C***(センター)、***S***(サラウンド)
　NONE(センター、サラウンドのみ):接続していない
　SMALL:LARGEの条件に満たないスピーカーを接続している
　LARGE: 20 Hz までの低音域が十分に再生できるスピーカーを接続している
SB(サラウンドバック)
　NONE:接続していない
　1-SPK:1 本接続している
　2-SPK:2 本接続している

初期設定:
LR（フロント）、***C***（センター）、***S***（サラウンド）　***SMALL***
SUBW（サブウーハー）　***YES***
SB(サラウンドバック)　***2-SPK***

お知らせ
- ***"SMALL"***の場合、再生できる周波数に応じて、低域フィルターの周波数が設定できます。（購入時は 100 Hz に設定されています。）（➜ 下記）
- 下記の場合、自動的に設定されます
  LR（フロント）を"***SMALL***"にすると ***SUBW***（サブウーハー）は"***YES***"
  SUBW（サブウーハー）を"***NO***"にすると、***LR***（フロント）は"***LARGE***"
- ***SB***（サラウンドバック）のサイズは、***S***(サラウンド)で選択したサイズと同じになります。

距離の設定をする

- フロント/センター/サラウンド/サラウンドバックスピーカーから視聴位置までの距離を設定することで、視聴位置に届く音の遅延時間を自動的に算出し、補正します。

1 DISTANCE **を選び、決定**

2 設定するスピーカーを選び、決定

LR　3.0 m

3 距離を選び、決定

LR　3.0 m

LR:フロント　***C***: センター
S: サラウンド　***SB***: サラウンドバック

設定値: ***1.0*** ～ ***9.9*** m
初期設定: ***LR***（フロント）、***C***（センター）　***3.0*** m
　S（サラウンド）、***SB***（サラウンドバック）　***1.5*** m

バイワイヤー接続の設定をする

- フロントスピーカーをバイワイヤー接続した場合に設定します。

1 LR BI-WIRE **を選び、決定**

2 YES **を選び、決定**

YES: バイワイヤースピーカーを接続している
NO: バイワイヤースピーカーを接続していない

初期設定: ***NO***

低域フィルターの設定をする

- スピーカーのサイズ（➜ 上記）が"***SMALL***"の場合のみ行ってください。
- スピーカーが"***SMALL***"の場合は低音域を十分に再生することができません。再生できる周波数に応じて低域フィルターの周波数を設定し、不足している低音域をサブウーハーに出力させます。

1 FILTER FRQ **を選び、決定**

2 低域フィルターの周波数を選び、決定

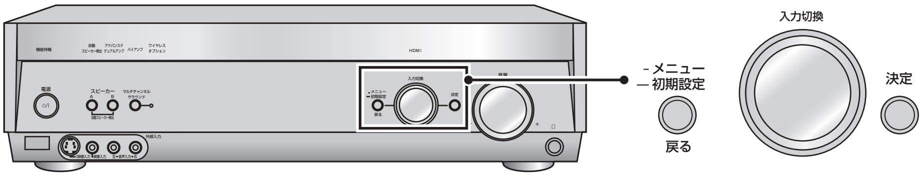
100

80: 80 Hz 以下の低音域をサブウーハーに出力
100: 100 Hz 以下の低音域をサブウーハーに出力
150: 150 Hz 以下の低音域をサブウーハーに出力
200: 200 Hz 以下の低音域をサブウーハーに出力

初期設定: ***100***

お知らせ
"SMALL"にしたすべてのスピーカーに設定されます。

アンプの設定をする（つづき）



操作方法は 30 ページをご覧ください。

デジタル入力端子を変更する

- デジタル入力端子に接続した機器に合わせて、設定を変更します。
- ひとつの入力は複数の端子で使用できません。
（例）DVDを“*OPT 1*”の設定に変更した場合、DVD は“*OPT 1*”（光 1）以外のデジタル端子で使用できません。

1 DIG INPUT **を選び、決定**

2 デジタル入力端子に接続した機器を選び、決定

TV　OPT1

3 デジタル入力の設定を変更し、決定

TV　OPT1

手順 2 と 3 を繰り返し、設定を変更

TV:　テレビ
DVR: DVD レコーダー
DVD: DVD プレーヤー
CD:　CD プレーヤー

初期設定:
TV:　***OPT1***（光 1）
DVR: ***OPT2***（光 2）
DVD: ***COAX1***（同軸 1）
CD:　***COAX2***（同軸 2）

入力信号の設定をする

- DVD レコーダーや DVD プレーヤーなどの入力をデジタル、アナログで自動判別するのか、固定するのかを設定します。
- 特に信号を固定する必要のないときは、“*AUTO*”にしてください。

1 INPUT MODE **を選び、決定**

2 デジタル入力端子に接続した機器を選び、決定

TV　AUTO

3 入力信号の判別方法を選び、決定

TV　AUTO

手順 2 と 3 を繰り返し、設定を変更

PCM FIX について
- CD を再生したとき、曲の始まりが途切れるような場合に使用してください。
- 正常に再生できる場合はこの設定をする必要はありません。
- ノイズが発生する場合は解除してください。

TV:　テレビ
DVR: DVD レコーダー
DVD: DVD プレーヤー
CD:　CD プレーヤー

AUTO: デジタル、アナログの自動判別（デジタルの場合、HDMI が優先されます）
ANALOG：アナログに固定
DIG: デジタルに固定
PCMFIX: PCM（音楽 CD など）のデジタルに固定

初期設定:
TV、***DVR***、***DVD***、***CD***:　***AUTO***

お知らせ
- デジタルに固定した場合、常に“**デジタル入力**”のディスプレイ表示が出ます。
- PCMFIX に設定すると、“**PCM** ”のディスプレイ表示が出ます。
- PCM FIX 設定時に PCM 以外のソースが入力された場合は、表示部に“***PCM FIX*** ”が点滅します。

バイアンプの設定をする

- フロントスピーカーをバイワイヤー設定している場合に表示されます。（→ 31）
- スピーカーの HF（高域）と LF（低域）の出力バランスを調整します。
- スピーカーの HF（高域）と LF（低域）のずれによる音声の遅延時間を補正します。

バランスの調整をする

1 BI-AMP **を選び、決定**

2 BALANCE **を選び、決定**

3 調整し、決定

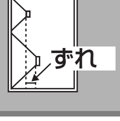
LF　HF

バーの表示は目安です。

LF: 低域　***HF***: 高域

HF と LF のずれを補正する

スピーカー
（横側、断面図）



1 BI-AMP **を選び、決定**

2 HF DELAY **を選び、決定**

3 調整し、決定

DELAY　0 cm

調整範囲: ***0*** 〜 ***30*** cm
- 1cm 単位で切り換えられます。

初期設定: ***0*** cm

操作方法は 30 ページをご覧ください。

HDMI 入力端子に接続した機器を選択する • 接続した機器が DVD レコーダーか DVD プレーヤーかを設定します。	**1** HDMI **を選び、決定** **2** INPUT DVR **を選び、決定** **3 HDMI 接続した機器を選び、決定** INPUT DVR	***DVR***：DVD レコーダーと接続しているとき ***DVD***：DVD プレーヤーと接続しているとき 初期設定：***DVR***
本機の電源「切」時の消費電力を下げる（省待機電力モード）	**1** HDMI **を選び、決定** **2** STNBY ON **を選び、決定** **3** STNBY OFF **を選び、決定** お知らせ • "***OFF***"にすると、電源「切」時の消費電力が 0.25W になります。 • HDMI 接続をしている場合、スタンバイスルー動作(**→ 5**)はできなくなります。 • 電源「切」時の VIERA Link（ビエラ リンク） (HDAVI Control（コントロール）)(**→ 19**)は無効になります。	***OFF***：電源「切」時の消費電力を下げる場合 ***ON***：電源「切」時の消費電力が通常の場合 初期設定：***ON***
アドバンスドデュアルアンプ機能を働かせない設定にする	**1** DUAL AMP **を選び、決定** **2** OFF **を選び、決定**	***OFF***：アドバンスドデュアルアンプ機能が働かない設定 ***AUTO***：アドバンスドデュアルアンプ機能が働く設定 初期設定：***AUTO***
小音量でも聞きやすくする • ドルビーデジタルに対するダイナミックレンジ圧縮機能です。 • 音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響することなく小音量でもセリフを聞きやすくします。深夜など大きな音を出せない場合に便利です。	**1** DRCOMP **を選び、決定** **2 設定を選び、決定** STANDARD お知らせ ディスクの情報に基づき動作するため、効果がない場合があります。	***OFF***：通常の再生 ***STANDARD***：ソフト制作者が家庭用として推奨する圧縮レベル ***MAX***：深夜視聴を前提とした最大の圧縮 初期設定：***OFF***
アッテネーターを切り換える • アナログ入力で再生中に音がひずみ、表示部に"***OVERFLOW***"が点灯した場合は、アッテネーターを「入」にしてください。	**1** ATTENUATOR **を選び、決定** **2** ON **を選び、決定** 解除するには"***OFF***"を選ぶ	***OFF***：切　***ON***：入 初期設定：***OFF***
音声を映像よりも遅らせて出力する • 音声と映像がずれている場合に、音声の出力を遅らせて、ずれを直します。	**1** TV DELAY **を選び、決定** **2** ON **を選び、決定**	***OFF***：通常の設定 ***ON***：音声の出力を遅らせる 初期設定：***OFF***
購入時の状態（初期設定）に戻す（RESET（リセット） 機能） • すべての設定を購入時の初期設定に戻します。必要に応じて再度設定を行ってください。	**1** RESET **を選び、決定** **2** RESET YES **を選び、決定** 中止するには"***NO***"を選ぶ お知らせ リセットすると、入力ソースは"***DVR***"に切り換わります。	***YES***：リセットする ***NO***：リセットしない

ヘルプメッセージ

	表示	原因/対策
1	CANCEL MUTING FUNCTION	消音機能が働いています。リモコンの[消音]を押して解除してください。(➜ 27)
2	MUSIC MODE ONLY	“*MUSIC*”モード以外のモードが選択されています。“*MUSIC*”モードにしてください。(➜ 24)
3	NO CENTER AND SURROUND SPEAKERS	センターとサラウンドのスピーカーが接続されていないか、「無」の設定になっています。接続するか(➜ 11)、「有」の設定にしてください(➜ 31)。
4	NO SURROUND AND SURROUND BACK SPEAKERS	サラウンドとサラウンドバックのスピーカーが接続されていないか、「無」の設定になっています。接続するか(➜ 11)、「有」の設定にしてください(➜ 31)。
5	NO SURROUND BACK SPEAKER	サラウンドバックスピーカーが接続されていないか、「無」の設定になっています。接続するか(➜ 11)、「有」の設定にしてください(➜ 31)。
6	NOT POSSIBLE FOR DTS-ES SOURCE	DTS-ES には使用できない効果を使用しようとしています。
7	NOT POSSIBLE FOR DVD AUDIO SOURCE	DVD オーディオには使用できない効果を使用しようとしています。
8	NOT POSSIBLE FOR DVD 6CH INPUT	DVD アナログ 6CH には使用できない効果を使用しようとしています。
9	NOT POSSIBLE FOR THIS INPUT SOURCE	現在の入力ソースには使用できない効果を使用しようとしています。
10	PCM FIX (点滅)	PCM FIX モードになっています。解除してください。(➜ 32)
11	SELECT SPEAKER A	スピーカーA が「切」になっています。スピーカーA を選択してください。(➜ 16)
12	SPEAKERS ARE OFF	スピーカーの A と B が「切」になっています。どちらかのスピーカーを選択してください。(➜ 16)

- このマークがある場合は -

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークは EU 域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

主な仕様

■アンプ部

実用最大出力(サラウンドモード 各 ch 動作時)	
フロント(L/R)	100 W + 100 W (6Ω, JEITA)
センター	100 W(6Ω, JEITA)
サラウンド(L/R)	100 W + 100 W(6Ω, JEITA)
サラウンドバック(L/R)	100 W + 100 W(6Ω, JEITA)
定格出力(サラウンドモード 各 ch 動作時)	
フロント(L/R)	70 W + 70 W(1 kHz 6Ω 0.3 %)
センター	70 W(1 kHz 6Ω 0.3 %)
サラウンド(L/R)	70 W + 70 W(1 kHz 6Ω 0.3 %)
サラウンドバック(L/R)	70 W + 70 W(1 kHz 6Ω 0.3 %)
実用最大出力(ステレオ時)	100 W + 100 W(6Ω, JEITA)
定格出力(ステレオ時)	70 W + 70 W(20 Hz-20 kHz 6Ω 0.09 %)
全高調波ひずみ率 20 Hz-20 kHz 定格出力	0.09 %(6Ω)
負荷インピーダンス	
フロント(L/R)	
A または B	6 ～ 16Ω
A と B	6 ～ 16Ω
BI-WIRE	6 ～ 16Ω
センター	6 ～ 16Ω
サラウンド(L/R)	6 ～ 16Ω
サラウンドバック(L/R)	6 ～ 16Ω
周波数特性	
CD, DVD, DVD レコーダー, VCR, TV, AUX	4 Hz ～ 88 kHz, ± 3 dB
DVD 6CH	4 Hz ～ 44 kHz, ± 3 dB
入力感度/入力インピーダンス	
CD, DVD/DVD 6CH, DVD レコーダー, VCR, TV, AUX	200 mV/22 kΩ
信号対雑音比(S/N 比)	
CD, TV, DVD, DVD レコーダー(DIGITAL INPUT)	103 dB
トーンコントロール特性	
低音	50 Hz, +10 ～− 10 dB
高音	20 kHz, +10 ～− 10 dB
出力帯域幅(ステレオ時)	4 Hz ～ 88 kHz,(6Ω, 0.9 %)

デジタル入力 (光)	2
(同軸)	2

HDMI 入力 (VER. 1.2a)	1
HDMI 出力 (VER. 1.2a)	1

■映像部

出力電圧(1 V 入力時)	1 ± 0.1 Vp-p
最大入力電圧	1.5 Vp-p
入出力インピーダンス(アンバランス)	75Ω

■総合

電源	AC 100 V, 50/60 Hz
消費電力	240 W
寸法(幅×高さ×奥行き)	430 mm × 107.5 mm × 390 mm
質量	約 4.7 kg

電源スタンバイ時の消費電力	約 0.7 W
省待機電力モード時	約 0.25W

注)
1. この仕様は、性能向上のため変更することがあります。
2. 全高調波ひずみ率は、スペクトラムアナライザーによる第10次高調波までの総和です。

「JIS C 61000-3-2 適合品」
:JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性ー第 3-2 部:限度値ー高調波電流発生限度値(1 相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

Q&A(よくあるご質問)

Q(質問)	A(回答)
マイクを接続したい。	本機には接続できません。
DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音が出ない。	DVD プレーヤーと本機をデジタル接続している場合はマイクの音は出力されません。アナログ接続して、アナログ入力にしてください。(➜ 8、32)
DTS の音声が出ない。 音声は出るが DTS 表示が点灯しない。	DVD レコーダーまたは DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定が、ビットストリーム出力であることを確かめてください。
デジタル接続で、DVD オーディオを再生しても音が出ない。	本機は CPPM に対応していますので、HDMI ケーブルで接続すると、DVD オーディオの音声を楽しむことができます。(➜ 5)
長時間使用すると、本体が熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。ただし、本体上部や側面の放熱孔を物でふさぐなど、放熱を妨げることはしないでください。
引っ越しするのだが、そのまま使えるか。	東日本、西日本に関係なく使えます。

故障かな !?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。
なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

	こんなときは	ここを確認、処置してください	ページ
共通	電源が入らない	• 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。	11
共通	機器の再生を始めても音や映像が出ない。または音がおかしい。	• スピーカー表示が消灯している場合は、スピーカー A または B を選択してください。 • 入力ソース(音源)を正しく選択してください。 •「消音」を解除してください。 • 本機で再生できるデジタル信号か確認してください。 • スピーカーや機器が正しく接続されているか確認してください。 • デジタル入力端子の設定を確認してください。 • PCM FIX モードを解除してください。 • DVD オーディオでは、著作権の関係上、デジタルで音声が出力できない場合があります。	16 16 27 17 5 ～ 13 32 32 —
共通	音が出なくなった。 (“***OVERLOAD***”が約 1 秒間表示される。) 本機は異常を検出すると、保護回路が働いて、電源を自動的に切ります。	• スピーカーコードの ⊕ と ⊖ がショートしていませんか。 • スピーカーインピーダンスが本機の許容範囲より低くないですか。 • 著しい大音量で聞いていませんか。 • 異常に暑い場所で使用していませんか。 ⇒原因を解消して、しばらく待ってから再び電源を入れてください。(保護回路の動作が解除されます。)(それでも同じ現象が起こる場合は販売店にご相談ください。)	11 11、12 — —
共通	アナログ入力で再生中、音がひずみ“***OVERFLOW***”が表示される。	• アッテネーターを「入」にしてください。	33
共通	“***F76***”が表示され、電源が切れる。	• 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	—
共通	“***U30 REM2***”または“***U30 REM1***”が表示される。	• リモコンコードを設定し、本体とリモコンのコードを合わせてください。	23
共通	表示部が暗い。	• “***DIMMER***”(ディマー)を解除してください。	27、29
共通	再生中、カチッと音がする。	• DVDなどを再生すると、入力信号によりアドバンスドデュアルアンプ機能が自動的に切り換わります。その際、カチッと音がしますが、故障ではありません。 ⇒アドバンスドデュアルアンプを自動的に動作させない設定もできます。(➔ 33)	—
音質・音場効果	センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サブウーハーから音が聞こえない。	• スピーカーやサブウーハーの有無、または、サイズの設定を確かめてください。 • ドルビープロロジックⅡx、NEO:6、SFC の設定を確かめ、適切なモードを選んでください。 • 2 チャンネルのステレオソースの場合は、[マルチチャンネルサラウンド] を「入」にしてください。	14、31 24 ～ 26 16
音質・音場効果	サラウンドバックスピーカーから音が聞こえない。	• スピーカーの有無とサイズの設定を確かめてください。 • [マルチチャンネルサラウンド] を「入」にしてください。	14、31 16
音質・音場効果	[マルチチャンネルサラウンド] が「入」にならない。 (ドルビープロロジックⅡx や NEO:6、SFC が使えない)	• センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーの接続を確認してください。 • スピーカーA を「入」にしてください。 • サンプリング周波数が 176.4 kHz、192 kHz の PCM 信号には使用できません。 • DVD アナログ 6CH を解除してください。 • BS デジタル放送の AAC 信号、ドルビーデジタル、DTS の二重音声には使用できません。	11 16 — 18 —
音質・音場効果	BS デジタル放送で二重音声放送の切り換えができない。	• BS デジタルチューナーの音声出力を AAC に切り換えてください。	—
音質・音場効果	SFC を使用中に音がひずんだように聞こえる。	• 入力ソースによっては、エフェクトのレベルを上げると音がひずんだように聞こえることがあります。その場合は、エフェクトレベルを下げてください。	26
HDMI	U70-1-1 が表示される。	• HDMI 接続した機器が、本機の著作権保護に対応していません。	—
HDMI	U70-1-2 が表示される。	• HDMI 接続で、本機が対応していない映像フォーマットの受信をしました。接続した機器の設定を確認してください。	—
HDMI	U70-3 が表示される。	• HDMI 接続で異常があります。以下の処置をしてください。 それでも直らないときは、販売店にご相談ください。 ー接続した機器の電源を「切/入」してください。 ーHDMI ケーブルを抜き差ししてください。 ー本機出力側の接続台数が 2 台を超えないようにしてください。	 — 5 —
HDMI	HDMI 接続で、始めの数秒間の音声が再生されない。	• DVD をチャプターから再生した場合に、起こることがあります。以下の処置をしてください。 ーDVD レコーダーまたは DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定をビットストリーム設定から PCM 設定にしてください。(ただし、6.1 チャンネルソースは 5.1 チャンネルで再生されます。) ー2チャンネルソースの場合は、さらに**「入力信号の設定をする」**で“***PCMFIX***”にしてください。	— 32
HDMI	正常に動作しない。	• HDMI の入力端子と出力端子を間違えて接続すると、正常に動作しません。 接続し直すときは、一度電源を切り、電源プラグを抜いてから接続してください。	5、19
HDMI	VIERA Link (HDAVI Control)が正しく動作しない。	• テレビ(VIERA)との HDMI ケーブルを接続してテレビの電源を入れ、そのまま本機の電源プラグを一旦抜いてから挿し直してください。	—
リモコン	リモコンが働かない。	• 電池が消耗している場合は電池を交換してください。	4
リモコン	他のオーディオ機器が動作する。	• 本機のリモコンコードを“***REMOTE 2***”に切り換えてください。	23

お手入れ

■本機が汚れたら
柔らかい布でふいてください。
ひどい汚れは、薄めた台所用洗剤(中性)を含ませた布でふき、後はからぶきしてください。
• アルコールやシンナーは使わないでください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は、絵表示の一例です。）

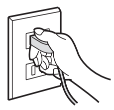
⃠	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
❗	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

電源コード・プラグを破損するようなことはしない
（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない）

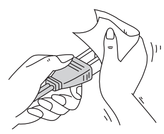
傷んだまま使用すると、火災・感電・ショートの原因になります。
- ●抜くときは、プラグを持ち、まっすぐ抜いてください。
- ●コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。
- ●傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは、使わないでください。

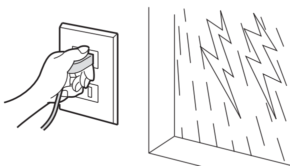
電源プラグのほこり等は定期的にとる



プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。
- ●電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
- ●長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

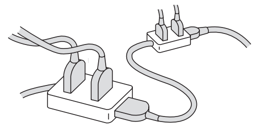
雷が鳴ったら、本機や電源プラグに触れない

接触禁止



感電の原因になります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100 V以外での使用はしない



たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

ショートや発熱により、火災・感電の原因になります。
- ●機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- ●特にお子様にはご注意ください。

異常があったときは、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

- ・内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき
- ・落下などで外装ケースが破損したとき
- ・煙や異臭、異音が出たとき

そのまま使うと、火災・感電の原因になります。
- ●販売店にご相談ください。

分解、改造をしない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。
- ●内部の点検や修理は、販売店にご依頼ください。

本機のイラスト(姿図)は、イメージイラストであり、ご購入のものとは形状が多少異なる場合がありますが御了承ください。

⚠警告

電池は誤った使いかたをしない

- 乾電池は充電しない
- 加熱・分解したり、水などの液体や火の中へ入れたりしない
- ⊕と⊖を針金などで接続しない
- 金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに持ち運んだり、保管しない
- ⊕と⊖を逆に入れない
- 新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使わない
- 被覆のはがれた電池は使わない
- 乾電池の代用として充電式電池を使わない。

取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になります。

電池の液がもれたときは、素手で液をさわらず、以下の処置をする

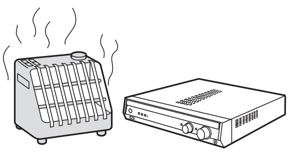
- 液が目に入ったときは、失明の恐れがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。
- 液が身体や衣服に付いたときは、皮膚の炎症やけがの原因になるので、きれいな水で十分に洗い流したあと、医師にご相談ください。

使い切った電池は、すぐに機器から取り出す

そのまま機器の中に放置すると、電池の液もれや、発熱、破裂の原因になります。

⚠注意

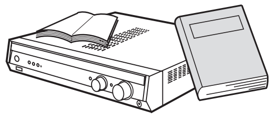
異常に温度が高くなるところに置かない



外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。

●直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

放熱を妨げない



内部に熱がこもると、外装ケースが変形したり、火災の原因になることがあります。

●通風孔をふさがないでください。

油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。

不安定な場所に設置しない

- 上に大きなもの、重いものを載せない

機器が落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。

長期間使わないときは、リモコンから電池を取り出す

電池の液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

コードを接続した状態で移動しない

接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。また、引っかかって、けがの原因になることがあります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・
●修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
●使いかた、お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■保証書（別添付）
お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体１年間

■補修用性能部品の保有期間 ８年
当社は、このＡＶコントロールアンプの補修用性能部品を、製造打ち切り後８年保有しています。
注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■修理を依頼されるとき
35ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は
保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは
修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。右記修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。

●修理料金の仕組み
修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料は、診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

パナソニック株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容			
製品名	ＡＶコントロールアンプ	お買い上げ日	年　　月　　日
品　番	ＳＵ-ＸＲ５７	故障の状況	できるだけ具体的に

「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。
http://panasonic.jp/support/

修理に関するご相談
パナソニック 修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） **0570-087-087**

• 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
• 携帯電話・PHS・IP/光電話等、ナビダイヤルがご利用できない場合は、最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
• 最寄りの修理ご相談窓口は、次ページをご覧ください。

使いかた・お買い物などのご相談
パナソニック お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電話 フリーダイヤル **0120-878-365**（パナは 365日）
■携帯電話・PHSでのご利用は… **06-6907-1187**
FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan
Tokyo (03) 3256 - 5444 **Osaka** (06) 6645 - 8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

パナソニック

修 理 ご 相 談 窓 口

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-087-087

- 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS・IP/光電話等、ナビダイヤルがご利用できない場合は、最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

- 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

北 海 道 地 区

札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	☎(011)894-1251
旭川	旭川市2条通16丁目1166	☎(0166)22-3011
帯広	帯広市西20条北2丁目23-3	☎(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	☎(0138)48-6631

東 北 地 区

青森	青森市大字浜田字豊田364	☎(017)775-0326
秋田	秋田市外旭川字小谷地3-1	☎(018)868-7008
岩手	盛岡市厨川5丁目1-43	☎(019)645-6130
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	☎(022)387-1117
山形	山形市平清水1丁目1-75	☎(023)641-8100
福島	郡山市亀田1丁目51-15	☎(024)991-9308

首 都 圏 地 区

栃木	宇都宮市上戸祭3丁目3-19	☎(028)689-2555
群馬	前橋市箱田町325-1	☎(027)254-2075
茨城	つくば市筑穂3丁目15-3	☎(029)864-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	☎(048)728-8960
千葉	千葉市中央区末広5丁目9-5	☎(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	☎(03)5477-9780
山梨	甲府市宝1丁目4-13	☎(055)222-5822
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	☎(045)847-9720
新潟	新潟市東区東明1丁目8-14	☎(025)286-0180

中 部 地 区

石川	金沢市横川3丁目20	☎(076)280-6608
富山	富山市根塚町1丁目1-4	☎(076)424-2549
福井	福井市問屋町2丁目14	☎(0776)21-0622
長野	松本市寿北7丁目3-11	☎(0263)86-9209
静岡	静岡市葵区千代田7丁目7-5	☎(054)287-9000
愛知	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	☎(052)819-0225
岐阜	岐阜市中鶉4丁目42	☎(058)278-6720
高山	高山市花岡町3丁目82	☎(0577)33-0613
三重	津市久居野村町字山神421	☎(059)254-5520

近 畿 地 区

滋賀	栗東市霊仙寺1丁目1-48	☎(077)582-5021
京都	京都市伏見区竹田中川原町71-4	☎(075)646-2123
大阪	大阪市城東区関目2丁目15-5	☎(06)6359-6225
奈良	大和郡山市筒井町800番地	☎(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	☎(073)475-2984
兵庫	神戸市須磨区弥栄台3丁目13-4	☎(078)796-3140

中 国 地 区

鳥取	鳥取市安長295-1	☎(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎(0859)34-2129
松江	松江市平成町182番地14	☎(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎(0855)22-6629
岡山	岡山市田中138-110	☎(086)242-6236
広島	広島市西区南観音1丁目13-5	☎(082)295-5011
山口	山口市小郡下郷220-1	☎(083)973-2720

四 国 地 区

香川	高松市勅使町152-2	☎(087)868-6388
徳島	徳島市沖浜2丁目36	☎(088)624-0253
高知	高知市仲田町2-16	☎(088)834-3142
愛媛	愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1	☎(089)905-7544

九 州 地 区

福岡	春日市春日公園3丁目48	☎(092)593-9036
佐賀	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044	☎(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1919-1	☎(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎(097)556-3815
宮崎	宮崎市本郷北方字草葉2099-2	☎(0985)63-1213
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎(096)367-6067
天草	天草市港町18-11	☎(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎(099)250-5657
大島	奄美市名瀬朝仁町11-2	☎(0997)53-5101

沖 縄 地 区

沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

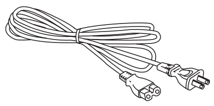
0608

付属品

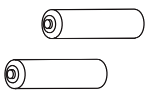
付属品を確認してください。

●●お願い●●

- 付属品の買い替えは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- かっこ【　】内は、買い替え時の品番です。(品番は 2005 年 12 月現在のものです。品番は変更されることがあります。)
- 電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。



□ **電源コード(1 本)**
【K2CA2CB00002】



□ **リモコン用乾電池**
(単 3 形:2 コ)



□ **リモコン(1 コ)**
【EUR7662Y70】

付属品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックグループのショッピングサイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。

Pana Sense

http://www.sense.panasonic.co.jp/

さくいん

愛情点検　**長年ご使用のAVコントロールアンプの点検を!**

こんな症状はありませんか	
	・煙が出たり、異常なにおいや音がする ・音が出ないことがある ・正常に動作しないことがある ・商品に破損した部分がある ・その他の異常や故障がある

▶ **このような症状の時は、使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。**

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です)

販売店名	☎(　　)　　ー	品番	SU-XR57
お客様ご相談窓口	☎(　　)　　ー	お買い上げ日	年　月　日

パナソニック株式会社　AVC ネットワークス社　ネットワーク事業グループ
〒571-8504 大阪府門真市松生町 1 番 15 号

RQT8554-MS
H1205RT3088